

令和3年度

技術力維持・向上対策研修運営委託事業

報告書

令和4年2月

一般社団法人 全国林業改良普及協会

目 次

事業のあらまし	1
I. 事業の目的	2
II. 事業の内容	2
1. カリキュラム検討等	2
2. 実践研修の運営	2
3. 情報共有ネットワーク化	2
III. 事業の年間スケジュール	2
1. カリキュラム検討等、実践研修、サイト関連	3
実践研修	5
I. 研修の実施概要	6
1. 運営体制	6
2. 事前打ち合わせの実施概要	6
3. 実践研修の実施概要	6
4. 基本テキスト	10
II. 各ブロックの研修実施状況	23
1. 北海道ブロック	24
2. 中部ブロック	29
3. 近畿中国ブロック	34
4. 四国ブロック	39
III. 主な意見と課題の整理及び総括	44
1. 外部講師の主な意見	44
2. アンケート結果の概要(ブロック別)	46
3. アンケート結果の概要(全体)	50
4. 運営改善報告書の概要	52
5. 実践研修の課題の整理	53
6. 総括	55
情報共有ネットワーク化	57
I. サイトの開設状況	58
1. 技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト	58
2. 実践研修受講生向けサイト	59
3. 森林総合監理士PRサイト	61
4. 森林総合監理士ネットワークサイト	63
5. 各サイトのアクセス数等	67
II. 総括	68

参考資料	69
1-1 実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)	70
1-2 実践研修修了者名簿	73
1-3 実践研修ふりかえりシートの様式例	75
1-4 実践研修アンケート調査票	77
1-5 実践研修タイムスケジュールの事例	78
1-6 研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について	82
1-7 体温・体調等記録用紙例	84
2-1 安全管理マニュアル	86
2-2 本事業で使用している研修関係用語の説明	97
2-3 事務担当、事務局名簿(統括事務局、ブロック事務局)	99

事業のあらまし

事業のあらまし

I. 事業の目的

市町村森林整備計画の作成・実行や森林経営計画の認定など市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士等技術者の能力の維持・向上を図るため、各地域の課題をテーマとした実践的な継続教育(以下「実践研修」という)を実施するとともに、森林総合監理士等技術者間の連携の推進及び先進的な地域活動の普及を目的としたネットワークの構築を行う。

II. 事業の内容

1. カリキュラム検討等

(1) カリキュラム案の作成等

林野庁担当官及び森林管理局研修担当官との打合せ等を基に、実践研修に係るカリキュラム・講師、研修資料、現地検討を行う国有林フィールドの選定等、ブロック毎の研修カリキュラム案を作成するとともに、受講生のアンケート結果の分析により研修結果を考察し、翌年度に向けた改善点の整理を行う。

(2)基本テキストの作成

林野庁で企画した原稿を元に、研修等で使用する基本テキストを作成する。

2. 実践研修の運営

市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林経営管理制度、地域森林・林業の再生、林業の成長産業化等に資する地域課題をテーマに、現地検討及びグループ討議等を通じて、現場レベルでの課題解決手法の習得を図るものとし、ブロック単位で実施する。

3. 情報共有ネットワーク化

森林総合監理士の地域課題への対応や先進的な地域活動等のPR及び森林総合監理士等技術者相互の情報共有や連携の促進を目的として、森林総合監理士を広くPRするための一般向けサイト、森林総合監理士間の情報共有に供する専用サイトを運営し、森林総合監理士等技術者のネットワーク化を図るとともに、実践研修受講生へのフォローアップを行う。

III. 事業の年間スケジュール

次頁図のとおりである。

Ⅲ. 事業の年間スケジュール

1. カリキュラム検討等、実践研修、サイト関連

← 延期前の日程 → 延期後の日程

月	5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月	
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週					
事業の内容	3~7	10~14	17~21	24~28	31~6/4	7~11	14~18	21~25	28~7/2	5~9	12~16	19~23	26~30	2~6	9~13	16~20	23~27	30~9/3	6~10	13~17	20~24	27~10/1	4~8	11~15	18~22	25~29	1~5	8~12	15~19	22~26	29~12/2						
	祝:3,4,5									祝:22,23				祝:9					祝:20,23				祝:3					祝:23									
北海道ブロック	実践研修に向けた準備																																				
東北ブロック																																					
中部ブロック																																					
近畿中国ブロック																																					
四国ブロック																																					
その他	4月下旬~5/7:基本テキスト作成					受講者照会					講師照会、依頼					実践研修外講師へ要請照会					研修の履修等の整理、事業報告書作成																
情報共有ネットワーク化	森林総合監理士PRサイト、森林総合監理士ネットワークサイト ポータルサイト、受講生サイト																																				

実践研修

実践研修

I. 研修の実施概要

1. 運営体制

別図(12頁参照)のとおり研修運営を行った。

2. 事前打ち合わせの実施概要

研修の実施に際し、事前に研修運営上必要な進行・役割分担の確認等、準備を行うことを目的に、各局研修担当官等と調整の上、ブロック別に事前打ち合わせを行った。なお、各ブロックでカリキュラム内容や外部講師人数、外部講師が担当する内容・役割等が異なることから、打ち合わせ形式(外部講師と局担当者とのみの打合せや関係者による集合打ち合わせ、非対面形式の打ち合わせ等)が異なる。

3. 実践研修の実施概要

(1)研修の目的

市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とする。

(2)対象者

森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等

(3)研修内容

研修は、昨年度まで6ブロックでの開催だったが、今年度から全国を5ブロック(北海道、東北、中部、近畿中国、四国)に区分し、各ブロックでテーマ及びカリキュラムを設定。

研修は2泊3日の日程で、東北ブロックがコロナウイルス感染状況により開催中止、他4ブロックは当初予定の日程から開催時期を延期して実施した。

各ブロックの研修テーマ一覧

ブロック	テーマ
北海道	資源循環利用構想実習 ～木材供給ビジョンを考える～
東北	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査
中部	伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通
近畿中国	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業
四国	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

①北海道ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(13頁参照)

②東北ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(15頁参照)

※コロナウイルス感染状況により開催中止

③中部ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(17 頁参照)

④近畿中国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(19 頁参照)

⑤四国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(21 頁参照)

(4)研修実施場所・研修日程

全国4ブロックにおいて10月から11月に実施した。

ブロック	日程	開催場所	研修会場	現地実習箇所
北海道	10月25日～27日	北海道北見市	サンライフ北見	北海道北見市国有林2250林班外
東北	9月8日～10日 ※開催中止			
中部	11月10日～12日	岐阜県下呂市	下呂市民会館	岐阜県下呂市乗政国有林外
近畿 中国	10月27日～29日	岡山県新見市	新見商工会館	岡山県新見市大佐上刑部 古谷国有林527林班
四国	11月17日～19日	高知県高知市	四国森林管理局	高知県中土佐町 栃ノ木谷山国有林3227林班

※東北ブロックはコロナウイルス感染状況により開催中止

(5)研修修了者

①都道府県別修了者数(全区分)

都道府県名	修了者					
	都道府県	市町村	国有林	国立研究開発法人	民間	
北海道	11	5	3	3	0	0
青森県	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	0
宮城県	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	0	0	0	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0
福島県	0	0	0	0	0	0
茨城県	0	0	0	0	0	0
栃木県	0	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0
千葉県	1	1	0	0	0	0
東京都	0	0	0	0	0	0
神奈川県	2	0	0	0	2	0
新潟県	0	0	0	0	0	0
山梨県	0	0	0	0	0	0
静岡県	1	1	0	0	0	0
富山県	1	1	0	0	0	0
石川県	1	1	0	0	0	0
福井県	0	0	0	0	0	0
長野県	2	0	0	2	0	0
岐阜県	0	0	0	0	0	0
愛知県	4	3	0	0	1	0
三重県	0	0	0	0	0	0
滋賀県	0	0	0	0	0	0
京都府	2	1	0	0	0	1
大阪府	0	0	0	0	0	0
兵庫県	2	0	0	0	0	2
奈良県	3	2	1	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0	0
鳥取県	2	1	0	0	0	1
島根県	0	0	0	0	0	0
岡山県	0	0	0	0	0	0
広島県	3	0	0	2	1	0
山口県	0	0	0	0	0	0
徳島県	0	0	0	0	0	0
香川県	1	1	0	0	0	0
愛媛県	2	1	0	1	0	0
高知県	6	2	0	4	0	0
福岡県	1	0	1	0	0	0
佐賀県	0	0	0	0	0	0
長崎県	0	0	0	0	0	0
熊本県	1	1	0	0	0	0
大分県	0	0	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	0	0
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	46	21	5	12	4	4

②ブロック別修了者数

ブロック	都道府県名	修了者					修了者						
		都道府県	市町村	国有林	国立研究開発法人	民間	都道府県	市町村	国有林	国立研究開発法人	民間		
北海道	北海道	11	5	3	3	0	13	5	4	3	1	0	
	神奈川県	1	0	0	0	1							0
	福岡県	1	0	1	0	0							0
中部	神奈川県	1	0	0	0	1	10	6	0	2	2	0	
	富山県	1	1	0	0	0							0
	石川県	1	1	0	0	0							0
	長野県	2	0	0	2	0							0
	静岡県	1	1	0	0	0							0
	愛知県	2	1	0	0	1							0
	京都府	1	1	0	0	0							0
	鳥取県	1	1	0	0	0							0
近畿 中国	千葉県	1	1	0	0	0	11	4	0	2	1	4	
	愛知県	1	1	0	0	0							0
	京都府	1	0	0	0	0							1
	兵庫県	2	0	0	0	0							2
	奈良県	1	1	0	0	0							0
	鳥取県	1	0	0	0	0							1
	広島県	3	0	0	2	1							0
熊本県	1	1	0	0	0	0							
四国	愛知県	1	1	0	0	0	12	6	1	5	0	0	
	奈良県	2	1	1	0	0							0
	香川県	1	1	0	0	0							0
	愛媛県	2	1	0	1	0							0
	高知県	6	2	0	4	0							0
合計		46	21	5	12	4	4	46	21	5	12	4	4

(6)研修修了者の所属別比、年齢構成、男女比

○所属別比

	総数	都道府県 職員	市町村職 員	国有林職 員	国立研究 開発法人 職員	民間
人数(人)	46	21	5	12	4	4
比率(%)	100.0	45.7	10.8	26.1	8.7	8.7

○年齢構成

年代	総数	20代	30代	40代	50代	60代	全体平均年 齢(歳)
人数(人)	46	7	13	21	4	1	40.0
比率(%)	100.0	15.2	28.3	45.7	8.7	2.1	

○男女比

	総数	男性	女性
人数(人)	46	36	10
比率(%)	100.0	78.3	21.7

4. 基本テキスト

(1) ページ数等

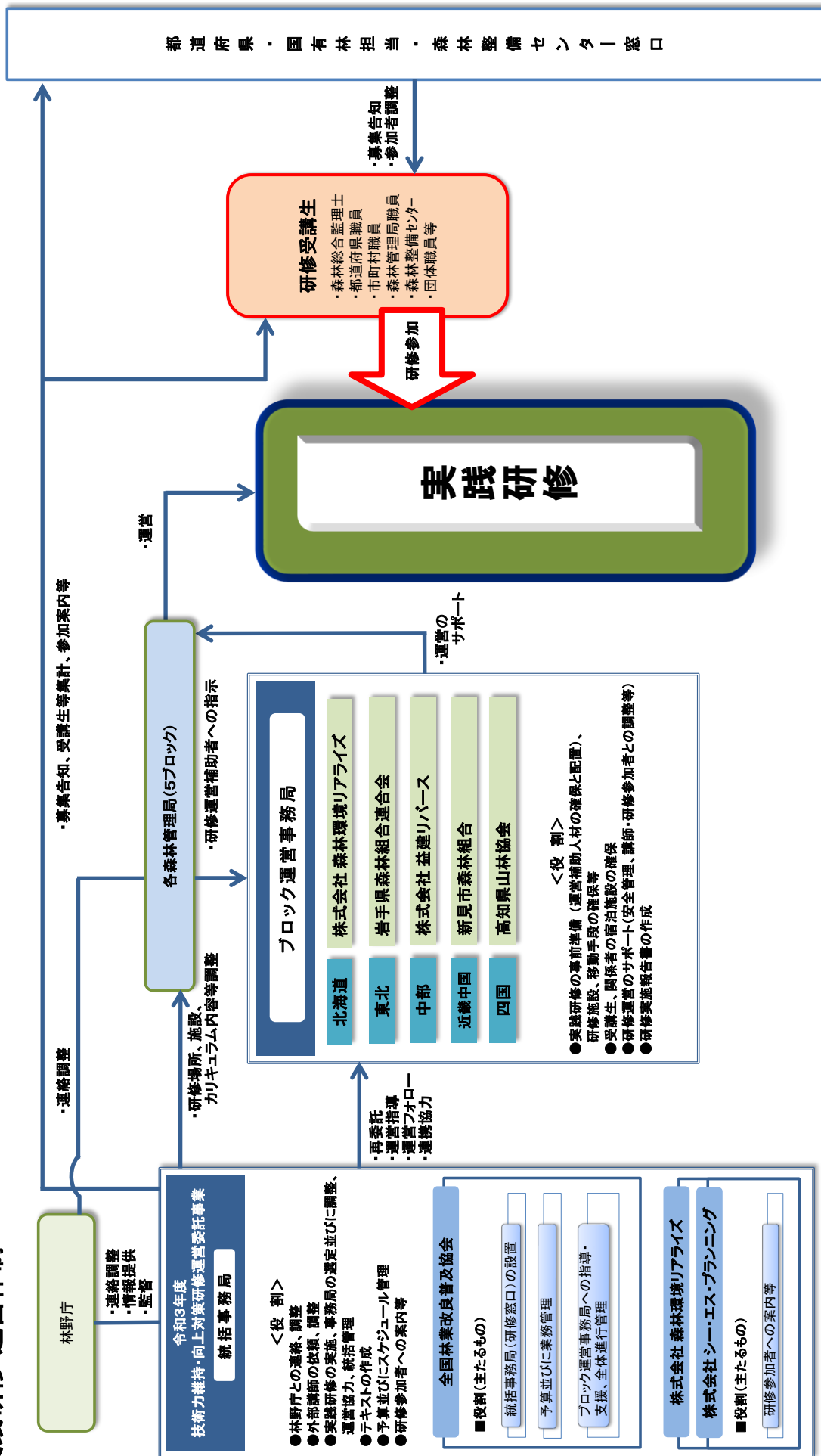
基本テキスト(全 298 ページ)を作成し、5月27日に100部納入した。

(2) 構成

第1部	森林総合監理士(フォレスター)
第1章	森林総合監理士(フォレスター)とは
第2章	森林総合監理士(フォレスター)に求められる能力・活動体制
第2部	森づくりの理念と森林施業
第1章	森づくりの基本的な考え方
第2章	目標林型とゾーニング
第3章	針葉樹人工林の目標と間伐
第4章	針葉樹人工林の収穫と更新
第5章	広葉樹林施業
第6章	鳥獣被害対策
第3部	森林・林業の構想と市町村森林整備計画
第1章	地域の森林・林業の構想
第2章	市町村森林整備計画
第3章	市町村森林整備計画の作成
第4章	市町村森林整備計画の実行監理
第4部	森林経営計画
第1章	森林経営計画の趣旨
第2章	森林経営計画の策定に当たっての留意事項
第3章	森林経営計画の策定に向けた森林総合監理士(フォレスター)の役割
第4章	森林認証制度と森林経営計画
第5部	森林経営管理制度
第1章	森林経営管理制度の趣旨及び概要
第2章	森林経営管理制度の基本的な事務の流れ
第3章	森林総合監理士(フォレスター)に期待されること
第6部	路網と作業システム
第1章	路網整備の推進
第2章	作設指針
第3章	路網整備におけるフォレスターの役割
第4章	作業システムと林業機械
第5章	作業システム選択の考え方
第6章	地域における作業システムの構築
第7章	コスト計算と機械の能力

第7部	これからの提案型集約化施業の進め方
第1章	提案型集約化施業とは
第2章	提案型集約化施業の進め方
第3章	森林施業提案書
第4章	提案型集約化施業の壁とプランナーをサポートする関係者
第5章	フォレスターに期待されること
第8部	木材流通・販売
第1章	国産材利用拡大の意義
第2章	木材需給
第3章	木材価格
第4章	木材の流通構造
第5章	木材安定供給・販売体制
第9部	林業における労働安全とフォレスターの役割
第1章	フォレスターに求められる役割
第2章	労働安全法令等について
第3章	リスクアセスメントの推進
第10部	コミュニケーションとプレゼンテーション能力
第1章	研修におけるコミュニケーションのスキルアップ
第2章	フォレスターとしてのコミュニケーションのあり方
第3章	コミュニケーションとプレゼンテーション
第4章	会議の進め方・合意形成の図り方
巻末資料	

1. 実践研修 運営体制



①北海道ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:資源循環利用構想実習 ～木材供給ビジョンを考える～】

		午 前					午 後						
10月 25日 (月)		集合					13:00～ 13:35 (35分)	13:35～13:55 (20分)	13:55～ 14:15 (20分)	14:25～15:25 (60分)	15:25～ 15:45 (20分)	15:55～17:25 (90分)	17:25～ 17:35 (10分)
			オリエン テーション (担当: 局研修 担当官)	研修の目的・ 内容 (担当: 局研修 担当官)	【講義】 森づくり 構想に 関する基 礎知識 (担当: 局講師)	【講義】 木材需給・流通に関する 基礎知識 (担当: 外部講師)	【講義】 森林資源 循環環 境に 関する 基礎知 識 (担当: 局講師)	【机上演習】 グループ演習① 施業案を机上作 成 (担当: 局研修担 当官)	まとめと 翌日の 現地検 討の進 め方説 明 (担当: 局 研修担 当官)				
10月 26日 (火)	8:30～11:40	【現地見学】 グループ演習② 現地にて林況等を踏まえた机上案の確認・検討 (担当:局研修担当官、外部講師、局講師)					11:40～12:20	12:20～14:50 (バス移動含む)	14:50～17:00	【机上演習】 グループ演習③ 机上案の修正 (担当:局研修担当官)			
10月 27日 (水)	9:00～9:50 (50分)	9:50～11:05 (75分)	11:15～12:10 (55分)	11:15～12:10 (55分)	11:15～12:10 (55分)	解散							
		【机上演習】 グループ演習④ 机上案の発表準備 (担当:局研修担 当官)	【発表】 検討結果の発表⑤ 質疑応答 (担当:局研修担当官、外部 講師、局講師)	【講評等】 検討結果に対する講師講 評 (外部講師/内部講師)									
		15分(発8、PKT2、質5)×4 班 60分											

実践研修の概要

北海道ブロック

テーマ	資源循環利用構想実習 ～木材供給ビジョンを考える～				
研修場所	北見市	実施日	10月25日～27日	該当する大目標	森林・林業を地域の振興につなげるビジョンを構築できる能力の習得
【研修のねらい・目標】					
現地実習で確認した団地を対象として、経営ビジョンを様々な観点から検討し、集約的かつ効率的な森林整備の戦略及び地域の将来ビジョンを描く能力を養う。					
【本研修の必要性】					
人工林資源が利用期を迎えていることから、森林資源の循環利用が課題であり、公益的機能を発揮しつつ資源の齢級構成の平準化も見据えた森林整備が重要である。このためには、中長期的かつ面的広がり視点を持ち、適時適切な施業を行う他、自然条件等に応じて多様な森林へ誘導する必要がある。また、木材の流通・販売を理解し、広域的な販売戦略を考えることも重要である。					
【講義のポイント】					
【講義】					
①「森づくり構想」 ②「森林資源循環利用構想」 ③「木材需給・流通に関する基礎知識」					
【グループ演習】					
演習地における森林整備の戦略及び地域の将来ビジョンを考える。					
<ul style="list-style-type: none"> ・机上案作成：各グループ内で検討。グループの森林整備の戦略及び将来ビジョン案を作成する。(初日) ・現地演習：演習の現地において、机上案の実現性・妥当性等を確認・再検討し、森林整備の戦略及び将来ビジョンを確定する。(2日目) ・発表・講評：各グループの森林整備の戦略及び将来ビジョンをプレゼンテーションし、全員で共有し講師から講評を受ける。(3日目) 					
【現地見学】					
CLT生産工場を見学する。(2日目)					
【まとめ】					
木材のサプライチェーンに向けた、今後の取り組みについて。					
地域における森林・林業の現状(問題点等)について、把握しておく。					
【研修講師】					
嶋瀬拓也((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 北海道支所 地域研究監)					

②東北ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)
【研修テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査】

9月8日(水)(午後)					
13:00~13:30	13:40~14:40	14:50~15:50	16:00~16:30	16:30~17:30	17:30~17:45
30分	60分	60分	30分	60分	15分
開講式 オリエンテーション等	【講義】 森林作業道とは	【講義】 森林作業道配置計画 の基礎知識	【演習】 情報技術を用いた森林 路網計画の手順と方法	【グループワーク】 森林作業道配置図の 作成	連絡報 告等
局研修担当	休息	休息	休息	外部講師 局講師	

9月9日(木)(午前)					
8:30~9:10	9:10~9:20	9:20~10:30	10:30~11:00	11:00~12:00	12:00~12:50
40分	10分	70分	30分	60分	50分
バス移動 「栗石町御明神公民館」へ	前日の ふりか えり、現 地検討 の進め 方	【演習】 森林作業道配置図の 作成等	公民館から 「演習箇所」 へ移動	【演習】 森林作業道配置事例 の研究	昼食
	局講師	外部講師 局講師		外部講師 局講師	
9月9日(木)(午後)					
		12:50~15:00	15:00~15:30	15:30~16:30	16:30~17:15
		130分	30分	60分	45分
		【演習】【グループワーク】 森林作業配置の現地検討 ～情報化技術を用いた現地踏査～	演習箇所から「公民館」 へ移動	【グループワーク】 森林作業配置図の作 成 路網配置の決定とそ の評価	バス移動 公民館から 研修会場へ
		外部講師 局講師		外部講師 局講師	

9月10日(金)(午前)					
9:05~9:10	9:10~9:40	9:40~10:25	10:35~11:05	11:05~11:15	11:15~11:25
5分	30分	45分	30分	10分	10分
日程説明	【グループワーク】 森林作業配置図の作 成 路網配置の決定とそ の評価	発表	講評	アンケート記入	閉校式
局研修担当		外部講師 局講師			局研修担当

※コロナウイルス感染状況により開催中止

実践研修の概要

東北ブロック

テーマ	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査				
研修場所	盛岡市	実施日	9月8日～10日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>情報化技術を活用し、地形・地質及び立木の資源状況に応じた適切な森林作業道の配置計画を考えることができ、実践的な指導・助言ができるようにする。</p>					
【本研修の必要性】					
<p>地域の森林を整備・管理し、木材を搬出して森林・林業を再生していくためには、路網が適切に整備されていることが重要である。しかしながら、地域における森林作業道の計画を立案できる技術を有する者は少ない状況にある。</p> <p>そのため、情報化技術を活用した森林作業道の路網配置計画を有するとともに、現地の林況に応じた効率的な森林作業道の配置を計画できる者を育成していくことが必要不可欠である。</p> <p>本研修によって、既設の森林作業道を検証するとともに新たな森林作業道の計画及び現地における検討を通じて、実践的な指導・助言ができるようになる。</p>					
【講義のポイント】					
<p>【講義：外部講師】 現地検討を深めるため、テーマに関連した技術的な最新の知見、現地検討のポイント等についての講義を実施する。</p> <p>【グループ演習】 講義の実施後に机上で、1/5,000図面(白図)および、CS立体図に森林作業道を計画する。</p> <p>【現地演習】 現地の既設森林作業道を確認・検証する。 机上の森林作業道計画図面により現地踏査を行い、図面と実際の現地の違いを確認する。 情報化技術によって表現された情報と現地での実態を理解する。</p> <p>【グループ演習・発表・意見交換】 机上の森林作業道計画図面に基づいて、現地を確認した上で、班ごとに地形・地質等により森林作業道の計画位置変更等、効率的な森林作業道作設に向けた検討・発表・意見交換を行う。</p>					
【研修講師】					
齋藤仁志(岩手大学農学部 准教授)					

③中部ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通】

場所:岐阜県下呂市(下呂市民会館2F会議室)、岐阜県下呂市(乗政国営林1126ろ、1121へ)と林小班、下呂総合木材市売協同組合)

1日目 11月10日 (水)	午後	13:00~13:30 (30分)	13:30~17:10 (3時間40分)	17:10~17:15 (5分)
	午前			
		・開講式 ・オリエンテーション	・講義・説明・演習	・2日目の 現地検討 について
			・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	
		研修担当	林野庁講師	研修担当

2日目 11月11日 (木)	午後	12:00~12:45 (45分)	12:45~14:05 (講義1時間00分/移動25分)	14:05~17:00 (2時間50分)	17:00~17:05 (5分)
	午前	9:00~12:00 (2時間20分/移動40分)			
		・搬出の運搬状況 ・地盤・シロカ防蝕対策等の確認 ・伐採・造林一貫作業システムによる主伐計画の検討	・市場情報・産量交換 ・流通・販売等の講義、意見交換	・研修準備	・3日目の 日程について
		屋食		・伐採一貫作業による主伐及び低コスト造林について図面、シート等作成	
		研修担当	外部講師	林野庁講師	研修担当

3日目 11月12日 (金)	午後	11:25~11:55 (30分)	11:55~12:15 (20分)	11:55~12:15 (20分)
	午前	9:00~9:10 (10分)	9:10~11:25 (2時間15分)	9:10~11:25 (2時間15分)
		・日程説明 ・発表手法 等説明	・研修準備・発表 ・講師講評	・集合写真 ・アンケート ・閉講式
		・編纂系作業システムによる主伐計画について図面、シート等作成 ・発表、アイスカンション		
		研修担当	研修担当	林野庁講師
		研修担当		研修担当

実践研修の概要

中部ブロック

テーマ	伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通				
研修場所	下呂市	実施日	11月10日～12日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>林業の成長産業化に貢献するためには、主伐・再造林を適切かつ低コストで実施する必要があることから、伐採・造林一貫作業システムについて現地検討・意見交換を行うことにより、課題解決力の向上、実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図る</p>					
【本研修の必要性】					
<p>主伐・再造林を進めるためには、地拵え等造林コストの縮減や、作業の効率化を図るため、林地残材の活用、コンテナ苗の利用推進が重要であり、そのためには、伐採・造林一貫作業システムを導入することにより、作業効率・コスト及び木材流通等の課題に対応できる技術者の育成が必要</p>					
【講義のポイント】					
【講義等】					
<p>①伐採・造林一貫作業システムについて(内部講師) →搬出計画(架線)の作成について講義、実習 →採材・仕分けについて講義 →造林コストの低減に向けた作業システムについて講義</p> <p>②流通・販売について(外部講師) →市場での有利販売に向けた取組、木材流通等に関する最新の情報について講義</p>					
【現地実習・視察・意見交換】					
<p>①1日目に作成した主伐計画の机上案により、伐採・造林一貫作業システム実施箇所の現地確認および集材方法・搬出系統等について検討し、効率的な搬出・造林作業ができるよう現地実習、意見交換</p> <p>②市場、木材流通等について視察、意見交換</p>					
【グループ演習・発表】					
<p>①講義・現地実習及び視察を踏まえ、伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画の検討を行い、主伐から植栽、流通までを班内で検討してとりまとめ、発表・全体討議・講評</p>					
【研修外部講師】					
杉山永喜(下呂総合木材市売協同組合 理事長)					

④近畿中国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業】

日程：令和3年10月27日(水)～29日(金)(2泊3日)

新見商工会議所

		午後						
		13:00～ 13:10	13:10～ 13:20	13:20～ 13:40	13:40～15:40(休憩10分含む)	15:40～16:10	16:10～17:00	17:00～17:30
1日目		開講式 (10分)	オリエン テーション (10分)	実践研修が イダンス (20分)	【講義】 ①今後の森林づくりの考え方について (30分) ②多様な森林づくりの構想について (60分) 班内共有＋質疑(20分)	グループ演習・ 現地検討の進め 方・発表のとりま とめ方説明 (30分)	【グループ演習1】 (50分) 現地検討前の打 合せ	ふりかえり (30分)
		進行役	研修担当官		外部講師 局講師	進行役	外部講師 局講師	進行役

2日目	8:00～ 9:10	9:10～ 9:20	9:20～10:10	10:10～13:30(昼食40分含む)	13:35～ 14:30	14:30～17:00(休憩10分含む)	17:00～ 17:20
	車移動	現地検 討の進 め方説 明 (10分)	【現地検討】古谷国有林 (50分) 天然力を活用した森林づくり (天然生広葉樹の活用事例の調査)	【現地検討】古谷国有林 (160分) 一斉人工造林地における今後の森林施業 (地位等の森林の状況の調査)	車移動	【グループ演習2】 (140分) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の 森林施業」をテーマとして、目標林型等について検討(50分) し、発表をとりまとめ(90分)	ふりかえ り (20分)
	進行役	外部講師 局講師	外部講師 局講師	外部講師 局講師	外部講師 局講師	外部講師 局講師	進行役

3日目	8:30～ 8:40	8:40～ 11:05(休憩15分含む)	11:05～ 11:25	11:25～ 11:55	11:55～ 12:00		
	本日の 進め方 説明 (10分)	【グループ演習3(発表・意見交換)】 (130分) 発表準備:50分 休憩:間に15分 (発表10分、班内共有5分、質問7分)×3班 =66分 全体を通じた意見交換:14分	講評 (20分)	ふりかえり、 アンケート記 入 (30分)	閉講式 (5分)	外部講師 局講師 林野庁	外部講師 局講師 進行役
	進行役	外部講師 局講師 進行役	外部講師 局講師 林野庁	進行役			

実践研修の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業				
研修場所	新見市	実施日	10月27日～29日	該当する大目標	森林を科学的に評価する能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の人工林について、目的を再確認・再設定し、その目的を達成するために最適な目標林型を導き出す能力の習得。 ・ 天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。 					
【本研修の必要性】					
<p>森林の管理を正しく進め、適切な施業技術を適用するためには、森林の現況やそこで発揮が求められる機能（木材生産、生物多様性の保全など）に対応した森林の将来像を描き、森林施業を進めていくことが重要であり、森林総合監理士には、そのような将来像を描く力が求められている。</p> <p>人工林は、多くの場合、木材生産を目的として造成され、現存する人工林の多くは、短伐期施業による柱材生産を生産目標としてきた。しかしながら、木材需要動向の変化や森林の持つ多面的な機能への期待の高まりなどを受け、目的を再確認（場合によっては再設定）し、その目的を達成するために最適な目標林型を明確にする必要が生じている。既存の人工林で生産目標を再設定する際には、地位や林木の形状からみて、達成可能なものでなければならない。</p> <p>本年6月に策定予定の新たな「森林・林業基本計画」では、現況が育成単層林のうち、林業に適した場所に位置する森林はこれを維持する一方で、それ以外は育成複層林化を図り、あわせて、天然生林を適切に維持することなどにより、一定の広がりにおいて様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置された望ましい森林の姿へと誘導するとされている。</p> <p>また、森林経営管理制度では、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託等を受け、そのうち自然条件が悪く再委託ができない等の森林は市町村が管理を実施することとなる。その際には、公益的機能を発揮しつつ、管理コストが小さくなるよう、針広混交の育成複層林等へと誘導する必要がある。森林総合監理士には、この市町村による公的管理の取組への技術的支援が求められている。</p>					
【講義】					
<ol style="list-style-type: none"> ① 今後の森林づくりの考え方について【内部講師：計画課 流域管理指導官】今後の森林づくりに関する政府方針 ② 多様な森林づくりの構想について【外部講師：森林総研関西支所 森林生態研究グループ長】目標林型や地位について 					
【現地検討】					
<ol style="list-style-type: none"> ① 一斉人工造林地における今後の森林施業 45haの一斉人工造林地をフィールドとして、図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査するとともに、地位等の森林の状況を現地調査 ② 天然力を活用した森林づくり 天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分を調査 					
【グループ演習】					
<p>班ごとに、45haの一斉人工造林地をフィールドとして、現地検討の結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマに、以下の手順で検討し、発表をとりまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 森林の現況（地位、森林被害状況等）と生産活動の可能性（路網、効率的な作業システム導入の可否等）の2つの視点から木材生産機能を評価するとともに、生物多様性などの他の公益的機能の発揮が重視される区域を検討。 ② ①の結果から、区域と区域毎の目的を設定し、それぞれの目的を達成するために最適な目標林型（木材生産を目的とする場合は、伐期齢、伐期における主林木の胸高直径と本数密度。それ以外を目的とする場合には、混交林等）を検討。 ③ 目標林型に導くための森林施業について検討するとともに、近い将来更新を行うことを想定した場合には更新方法等を検討。 <p>各班から検討結果の発表を行ったのち、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。</p>					
【外部研修講師】					
山下直子（（研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 森林生態研究グループ長）					

⑤四国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について】

実施期間：令和3年11月17日(水)～令和3年11月19日(金)

日程	午 前				午 後				
	13:00～13:30	13:30～15:00	15:10～15:50	16:00～16:40	13:00～13:30	13:30～15:00	15:10～15:50	16:00～16:40	16:40～17:00
11/17 (水)	【開講式】 (30分)	【講義】 (90分)	(10分)	【実習】 (40分)	(30分)	(90分)	(10分)	(40分)	(20分)
	・森林整備部長挨拶 ・研修主旨、意図、留意点の説明 (四国局会議室)	・大型製材工場の現状と課題 ・地域の特性に合った木材流通等 外部講師 (四国局会議室)	休憩	机上で1/5000図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入。 内部講師 (四国局会議室)	・森林整備部長挨拶 ・研修主旨、意図、留意点の説明 (四国局会議室)	・大型製材工場の現状と課題 ・地域の特性に合った木材流通等 外部講師 (四国局会議室)	休憩	机上で1/5000図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入。 内部講師 (四国局会議室)	ふりかえり (四国局会議室)
11/18 (木)	8:15～10:15 (120分)	10:25～11:25 (60分)	11:25～12:05 (40分)	12:05～13:05 (60分)	13:05～15:05 (120分)	15:15～16:00 (45分)	16:00～16:45 (45分)	16:45～17:05 (20分)	研修担当
	【バスにて現地へ移動】 (トイレ休憩含む) 栃ノ木谷山国有林 3227へ林小班	採材研修 ・自班の採材木と、外の班の採材木を採材(合計3本)し、その結果を発表 ・その結果に対する講評(外部講師) 外部・内部講師 (栃ノ木谷山国有林)	架線集材作業現場見学及び説明 ・事業概要 ・集材権について ・プロセッサ造材について 外部・内部講師 (栃ノ木谷山国有林)	昼食 搬出系統図の確認が必要であれば、ローンで確認 (栃ノ木谷山国有林)	【バスにて四国局へ移動】 (トイレ休憩含む)	簡易な架線集材設備の見学及び操作演習 ・架線設備説明 ・電動集材機操作 内部講師 (四国局駐車場)	各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	研修担当
	8:15～10:00 (105分)	10:10～11:30 (80分)	11:30～12:00 (30分)	12:05～13:05 (60分)	13:05～15:05 (120分)	15:15～16:00 (45分)	16:00～16:45 (45分)	16:45～17:05 (20分)	研修担当
	各班で現地確認等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	各班発表 ①12名(3班) ②各班20分(10分:発表、8分:質疑応答)×3班=60分 ・講評:10分 (80分)	・ふりかえり(10分) ・アンケート(10分) ・閉講式(10分) ・終了/解散 (30分)	昼食 搬出系統図の確認が必要であれば、ローンで確認 (栃ノ木谷山国有林)	【バスにて四国局へ移動】 (トイレ休憩含む)	簡易な架線集材設備の見学及び操作演習 ・架線設備説明 ・電動集材機操作 内部講師 (四国局駐車場)	各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	研修担当
11/19 (金)	8:15～10:00 (105分)	10:10～11:30 (80分)	11:30～12:00 (30分)	12:05～13:05 (60分)	13:05～15:05 (120分)	15:15～16:00 (45分)	16:00～16:45 (45分)	16:45～17:05 (20分)	研修担当
	各班で現地確認等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	各班発表 ①12名(3班) ②各班20分(10分:発表、8分:質疑応答)×3班=60分 ・講評:10分 (80分)	・ふりかえり(10分) ・アンケート(10分) ・閉講式(10分) ・終了/解散 (30分)	昼食 搬出系統図の確認が必要であれば、ローンで確認 (栃ノ木谷山国有林)	【バスにて四国局へ移動】 (トイレ休憩含む)	簡易な架線集材設備の見学及び操作演習 ・架線設備説明 ・電動集材機操作 内部講師 (四国局駐車場)	各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 (四国局会議室)	研修担当

実践研修の概要

四国ブロック

講義等名	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について				
研修場所	中土佐町大野見	実施日	11月17日～19日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
急峻な地形に応じた効率的な架線系と作業路網を組み合わせた集材作業システムや大型製材工場の木材利用・流通事情について現地検討・意見交換を行い、地域における木材の安定供給について実践的な指導・助言ができる人材の育成を図る。					
【本研修の必要性】					
<p>四国においては、地形が急峻な箇所が多いなか、地域の特性に応じた効率的な架線集材システム、現地特性に応じた林業機械の組み合わせによる生産の効率化等が課題となっていることから、架線集材、高性能林業機械等を組み合わせた事業現場で現地検討等を行う。</p> <p>また、大型製材工場や木質バイオマス発電所が操業開始後、約9カ年が経過、その後、他県においても大型工場やバイオマス発電プラント等が操業されていることから、最新の木材利用・流通事情及び今後の動向等について、情報を共有し、それぞれの地域における取組みに資する。</p>					
【カリキュラムのポイント】					
<p>[1日目]</p> <p>【講義】</p> <p>①大型製材工場の現状と課題〔外部講師〕</p> <p>②架線系作業システムについて説明〔内部講師〕</p> <p>③各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)の作成</p> <p>[2日目]</p> <p>【現地視察】</p> <p>①採材研修を実施〔外部・内部講師〕</p> <p>②事業地の集材作業システムについて説明〔外部講師(素材生産請負事業者)〕</p> <p>③各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線・路網)の確認再検討を行う〔外部・内部講師〕</p> <p>④架線集材設備の基礎知識の習得(簡易な索張見学)〔内部講師〕</p> <p>[3日目]</p> <p>【意見交換】</p> <p>①各班で現地確認等を踏まえた、集材作業システムの発表(コスト計算含む)の資料づくり</p> <p>②発表・意見交換・講評</p>					
【研修講師】					
<p>砂田和之(株式会社サイプレス・スナダヤ 代表取締役社長)</p> <p>大川容平(高知県森林組合連合会 高幡共販所 所長)</p> <p>太郎田佑一(須崎地区森林組合 業務係長)</p>					

Ⅱ. 各ブロックの研修実施状況

実践研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

なお、「実施報告書」は、受講生サイトに掲載した。

1. 北海道ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(北海道ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和3年10月25日(月)～10月27日(水)
研修会場 サンライフ北見 研修室・職業講習室(北海道北見市)
現地実習 北見市国有林2250林班外(北海道北見市)

- 2 研修受講者数:13名 [男性:11名 女性:2名]
(道職員5名、市職員2名、町職員2名、森林管理局職員3名、森林整備センター職員1名)

北海道	5名	北見市	1名	上士幌町	1名	中標津町	1名	北九州市	1名
森林管理局	3名	整備センター	1名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式の後、受講生は自己紹介カードを使い自己紹介を行った。横山内部講師より「森林・林業の背景・現状に関する基礎知識」の講義が行われ、嶋瀬外部講師から「木材需給・流通に関する基礎知識」の講義が行われた。次に、信田内部講師より、「森林資源循環利用に関する基礎知識」の講義が行われた。その後、各班ごとに机上で施業計画書の作成を行った。

・2日目は貸切バスを利用して、北見市国有林へ移動し、現地演習を行った。研修スタッフよりスケジュール等の説明が行われた後、班ごとに分かれ、前日に作成した施業計画書修正のため、現地確認を行った。次に協同組合オホーツクウッドピアへ移動し、DVDを視聴した後、集成材等の生産現場の見学を行った。見学後は会場へ戻り、最終案に向けての検討を行った。

・3日目は各班ごとに発表・質疑応答を行った。発表後、嶋瀬外部講師らによる各班の施業計画書についての講評及び今後の留意点等の補足が行われた。講評を受けて、受講生より最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は閉講した。

○今回の研修の工夫

・資源循環利用構想(ビジョン)を検討する際、森林総合監理士等として、「施業計画を立て、資源が持続的かつ有効に活用されるよう地域を先導していくことを学ぶ」研修であることを1日目のイントロで説明し、受講生の思考の目合わせを行った。

・ドローン動画、全天球カメラ画像、OWL(地上レーザ計測)画像を受講生にパソコンで見られるようにした。OWLは初めて見る受講生も多く関心が高かった。

・施業計画書の考え方に唯一の正解は無いものの、複層林への誘導、造林コストの低減、木材需給・流通についても、施業案作成の際に考慮するよう導いた。

4 記録写真



嶋瀬外部講師による講義:1日目



グループワークによる施業計画の机上案作成:1日目



現地演習での机上案の確認・修正:2日目



CLT材生産現場の見学:2日目



施業計画の修正と計画概要作成:2日目



検討結果の発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	○特記事項なし。	○次年度以降も、研修テーマ(演習地)と講義内容が合致するよう検討する。
講義・演習	○特記事項なし。	①講義内容については、外部講師との兼ね合いについても考慮する。 ②「アンケート」では、グループ演習の時間が足りないとの声もあることから、グループ演習時間の拡大を検討する。
現地実習	○特記事項なし(実習地・見学地への移動時間も程よく、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た)。	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、休憩時間(場所)にも配慮する。
その他	○特記事項なし。	○次年度以降も、受講生の負担を減らす工夫(会場設定、交通機関、駐車場、現場用品の準備、宿泊場所など)をしていく。

(3)アンケート結果

回収率:13名/13名(100%)

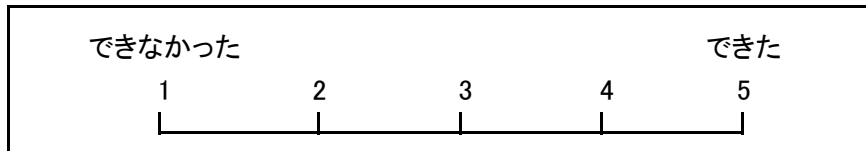
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2 名)
- 2 : 資格なし (11 名)

II 本研修に対する理解度、活用度

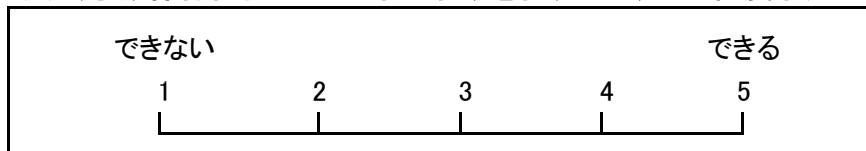
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (8 名) 多角的な木材利用や経営プランを学べた／森林所有者や事業体と共有したい
- 5 (5 名) 施業案を作成する際にあらゆる情報を集めて作らなければならないことが分かった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

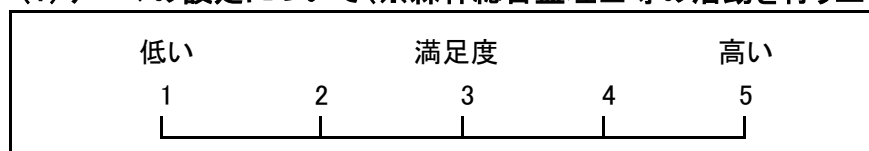


平均: 4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (7 名) 構想を実現するための進め方について活用したい／色々な視点が必要と感じた
- 5 (6 名) 色々な考え方を聞くことができ、職場へ帰っても活用できそう

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

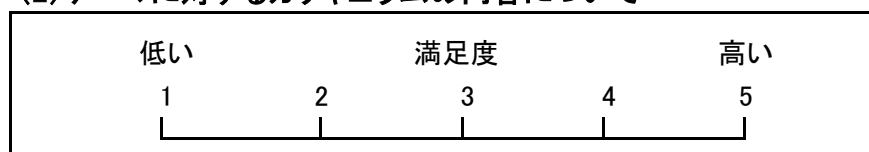
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (1 名) 必要なテーマである
- 5 (11 名) 地域の課題と合致していた／市長への提案の設定がよかった

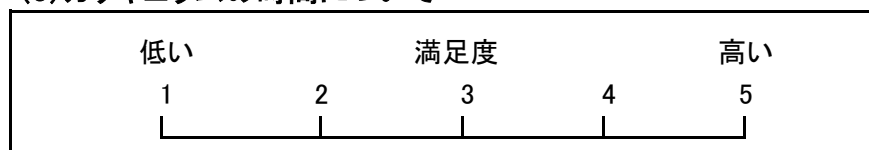
(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.7

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 現地でどんな視点で見れば目標林型を考えられるのかコツなど教えてほしかった
- 4 (2 名) 講義内容が参考になった
- 5 (10 名) 事前に森林の情報が詳しく分かり良かった／活用していく上で必要な内容だった

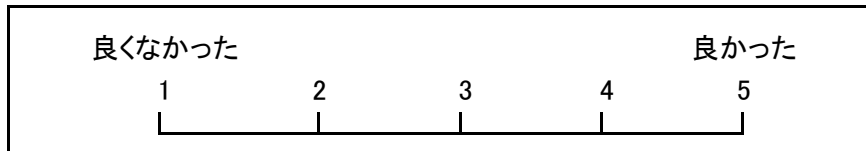
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) それぞれの時間が短い
- 3 (3 名) グループワークの時間不足／このテーマであれば工場視察はなくてもよかった
- 4 (5 名) 充実していたがもう一日ほしかった／考えをまとめる時間の余裕がなかった
- 5 (3 名) もう少し議論する時間があってもよい

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) グループワークの進め方の説明は繰り返しの部分があったと感じた
- 4 (2 名) 十分だった
- 5 (8 名) スムーズで分かりやすかった／良い雰囲気の中で研修を終えることができた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 素晴らしい時間だった
- ・ 他の方の考え方を聞いて大変参考になった
- ・ グループワーク、プレゼンのスキルの向上が必要と思った。有意義な研修だった
- ・ 現地を見て計画を練るのは良いと思った
- ・ 北海道の森林・施業についてたくさん教えていただき、自県（本州）と違うことも多くとても勉強になった
- ・ 国、道、市町村それぞれの考え方が聞けてよかった。今後も継続してほしい
- ・ 計画検討（机上）の際にもアドバイスやフォローがあるとよかった

2. 中部ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(中部ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和3年11月10日(水)～11月12日(金)
研修会場 下呂市民会館(岐阜県下呂市)
現地実習 下呂市乗政国有林外(岐阜県下呂市)

- 2 研修受講者数:10名 [男性:9名 女性:1名]
(県職員6名、森林管理局職員2名、森林整備センター職員2名)

富山県	1名	石川県	1名	静岡県	1名	愛知県	1名	京都府	1名
鳥取県	1名	整備センター	2名	森林管理局	2名				
途中欠席者数		0名							

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・9月14日～16日に実施する予定だったが、コロナウイルス感染状況により日程を延期しての実施となった。また、当初16名の参加予定であったが、10名での実施となった。

・1日目、欠席・遅刻なく集合、中部森林管理局筒井企画官の進行により開講、森林整備部山口部長による挨拶の後、講師紹介を行い、伐採・造林一貫作業システム、採材・仕分けの講義や伐採計画の演習などを実施した。

・2日目、天候は曇りで気温が低い中、現地実習が進められた。伐採造林一貫作業システムの現場を見学し、獣害対策網の設置、架線の詳細、作業道についてなど活発な質問がなされていた。下呂木材市場にて杉山理事長から木材販売の講義及び市場内を見学、木材の利用詳細などの説明を受けた。

・3日目、各班の発表に対し活発な意見交換や質問等が行われた。発表後の講師陣からのフィードバックも行われ充実した内容であった。

・当初の日程より2ヶ月弱延期しての実施となったが、コロナウイルス感染症対策もしっかり行い、スケジュールや時間調整など柔軟に対応し、予定通りのカリキュラムを実施することができた。

○今回の研修の工夫点

・参加人数は少なかったが、広さのある会場が確保できていたため感染対策にはよかった。

・日程変更の影響により実際の架線集材が見られなかったが、別途写真及び映像で説明、補完した。

4 記録写真



開講式:1日目



演習の様子:1日目



現地検討・伐木造材の一貫作業:2日目



現地検討・市場視察:2日目



発表の様子:3日目



局講師講評:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ ュ ー ラ マ ム ・ カ リ	○各班が伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画を検討し、植栽、流通までを発表したが、収支まで検討した班が少なかった。	○検討・発表内容は各班に委ねている部分もあり、発表内容に差があることで受講生に気づきが生まれる面があるが、他方、販売経費まで検討する資料を作成し、収支等まで意識してもらうことを組み込むことを検討する。
講義 ・ 演習	○各班の演習において役割などを決めたほうがよいと感じる場面があった。	○限られた時間内で演習を進めることから、作業分担等を決めるよう指摘することも必要。
現地 実 習	○受講生から実際に架線集材の現場を見たかったという意見が多く寄せられた。	○当初は組まれていたが、日程が変更されたため実施できなかった。次年度はタイムスケジュールを考慮しながら準備していくが、見学できない可能性もあることから、現時点で稼働している現場をドローンで撮影しておくことも一案。
その他	○受講生の1名がマスクを着用しない場面が多くあり、他の受講生から指摘があった。	○受講生に対して着用の注意は行ったが、マスク着用の周知及び注意喚起を徹底する。

(3)アンケート結果

回収率:10名/10名(100%)

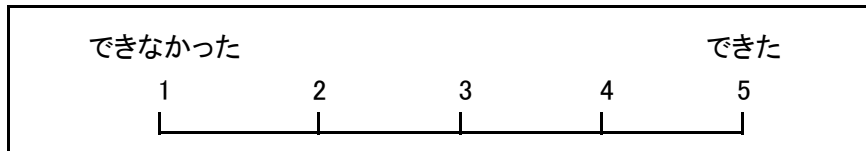
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (6名)
- 2 : 資格なし (4名)

II 本研修に対する理解度、活用度

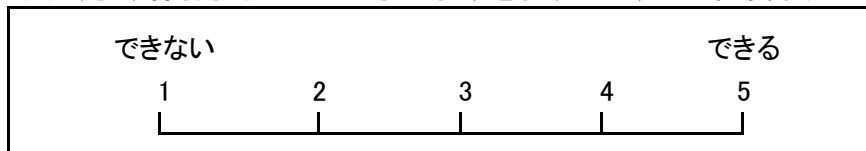
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 実際に架線の現場を見たことがなくうまくイメージができなかった点があった
- 4 (3名) 架線系の基礎知識がなかったので、関連した講義があるとうれしかった
- 5 (5名) 架線型集材の知識を知ることができたためになった/資料、動画も分かりやすかった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

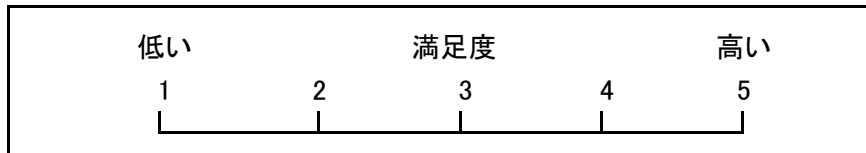


平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (6名) 場所によっては必ず架線集材を選択するため、提案に向けて活用できる
- 5 (4名) 架線及び造林指導で活用できる

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 流通、販売、市場について参考になった
- 4 (3 名) 架線集材を学ぶ場所は少ないため良いと思う／日頃触れる機会の少ないテーマ
- 5 (6 名) 架線、一貫作業に関しては実習を含め初めてだったので貴重

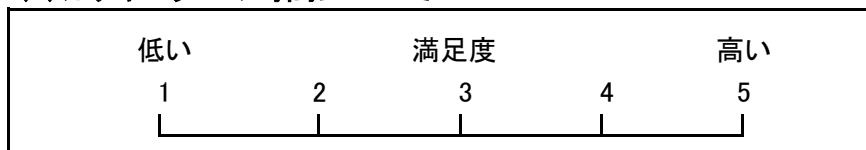
(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 架線での伐採中に現場を見たかった
- 4 (5 名) 架線集材は初めてなので参考になった／手で作図したのは理解するのによかった
- 5 (4 名) 講義、机上検討、現地検討、市場見学等、盛りだくさんな内容で満足

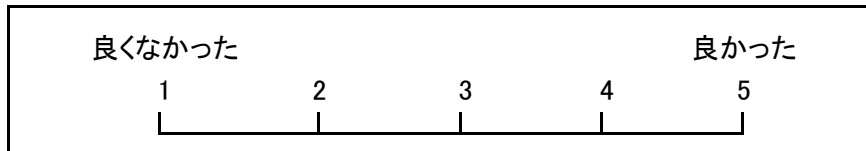
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 経験も必要だが、流通、販売をもう少し長くしてほしい
- 4 (5 名) 3日間あっという間だったので、もっと勉強したいと思った
- 5 (3 名) 通常業務があるのでこの位の時間がありがたく、ちょうど良い

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (4 名) 内業者、外業者でよかった／特に問題なくスムーズに進みよかった
- 5 (6 名) 講師のアドバイスが適切に入り助かった／快適に研修を受講できた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 下呂木材市場の理事長のお話は大変印象的だった。貴重な話をありがとうございました
- ・ 事業体や市と一丸となって、地元で架線集材に取り組んでいきたい
- ・ 非常に勉強になった
- ・ 林業の知識、技術を高めていかなければならないと感じさせられた。テキストを覚えることと内容を理解するということは違う
- ・ 皆伐の省力化についてはもう少し研究が必要。システム販売の内容も説明がほしかった
- ・ 他の班員とあまり話せなかったのが自身の反省点
- ・ 手持ちの資料が細かすぎて見えない。図を1ページ2枚ではなく、1枚で印刷してほしい
- ・ コロナ禍で開催される研修は感染防止対策の徹底をお願いしたい

3. 近畿中国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(近畿中国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和3年10月27日(水)～10月29日(金)
研修会場 新見商工会館 会議室(岡山県新見市)
現地実習 古谷国有林527林班(岡山県新見市大佐上刑部)

- 2 研修受講者数:11名 [男性:7名 女性:4名]
(県職員4名、森林管理局職員2名、森林整備センター職員1名、民間事業者4名)

千葉県	1名	愛知県	1名	奈良県	1名	熊本県	1名	森林管理局	2名
整備センター	1名	民間事業者	4名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、林野庁研究指導課吉岡課長補佐の挨拶の後、オリエンテーション、ガイダンスを経て、森林管理局講師による「今後の森づくりの考え方について」、外部講師による「多様な森林づくりの構想について」の講義が行われた。質疑では特に皆伐が進む地域において、どのような対応をしているかなど、日頃受講生が苦悩している点など活発に行われた。「現地検討の進め方及び発表の取りまとめ方」では明日の現地検討地について、ドローンによる映像を使い説明を行った。その後、各班で机上での調査、検討を行い、1日目の研修を終えた。

・2日目は、古谷国有林へバスで移動、途中踏査場所を遠望できるポイントで下車、現地の概況説明後に移動し、最初は全員で「天然力を活用した森林づくりの踏査」を行い、山下外部講師から説明を受け、各班で踏査を行った。昼食後、各班に分かれて各々の調査ポイントを調査した。研修会場では、各班持ち帰った情報を共有、とりまとめをし、明日の発表の準備を行った。

・3日目は、日程説明の後、各班で発表の準備を行った。二班から発表し、質疑応答が活発に行われた。最後に講師陣による講評の後、閉講式が行われ、研修の全日程が終了した。

・全体としては、スムーズな進行となった。参加者全員が作業に参加し活発に意見を述べるなど、充実した研修となった。

○今回の研修の工夫点

- ・今年度から、パワーポイントでの発表とした。
- ・現地への移動が迂回ルートとなったため出発を30分早めた。

4 記録写真



オリエンテーション アイスブレイク風景 :1日目



外部講師による講義:1日目



現地検討 概要説明:2日目



班による検討、発表準備:2日目



発表・意見交換:3日目



講師による講評:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	特記事項なし。
講義・演習	①KJ法について詳しく説明できなかった。 ②パワポをまとめるには、時間が短かった。 ③外部講師の資料と内部講師の資料に重複した箇所あった。	①今後詳しく説明する。 ②受講生アンケート結果もほぼ全員から時間不足に対する指摘もあったため、最終日の終了時間を午後にするこも含め検討する。 ③事前にすり合わせをする。
現地実習	①10月下旬の実施のため、下層植栽が枯れて分かりづらかった。 ②時間的にタイトとなった。	①新型コロナウイルス感染症の影響で当初予定から日程が後ろにずれたため、今年度は仕方なかったとの判断。 ②道路工事の為、迂回ルートとなり移動に時間がかかったが、今年度中に工事は完了するため改善される。
その他	○新型コロナウイルス感染症の関係で意見交換会がないので、他の班の研修生との交流がない。	○意見交換会か何らかの形で交流できるように検討する。

(3)アンケート結果

回収率:11名/11名(100%)

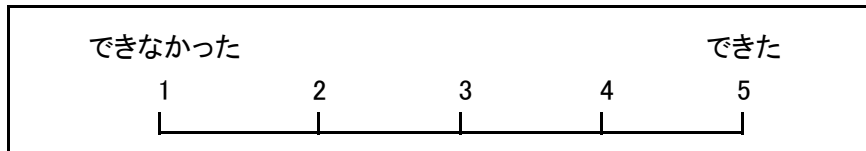
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (3名)
- 2 : 資格なし (8名)

II 本研修に対する理解度、活用度

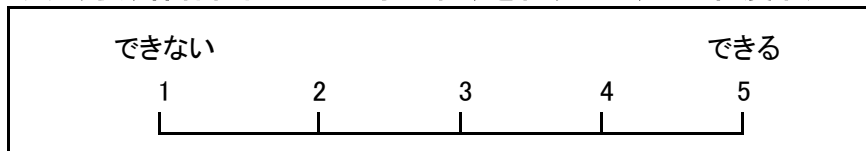
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (7名) 講師の説明も丁寧で、非常に分かりやすかった/ゾーニングのポイントを理解した
- 5 (4名) 非常に分かりやすい講義だった/広葉樹の施業の難しさを理解した

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

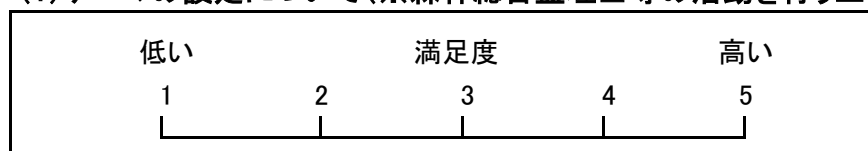


平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) ゾーニングを施業に繋げるのは大事だが、所有者が複数いる場合はなかなか難しい
- 4 (6名) 目標林型に向けた考え方の整理等の参考にしたい/説明がしやすくなった
- 5 (3名) 森林総合監理士以外の日常業務にも活用できる/針広混交林への誘導に活用したい

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

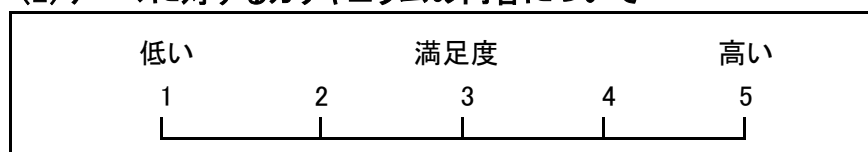
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 森林づくりとは何か、立ち止まって考える必要性を感じた／様々な意見を聞いた
- 5 (6 名) 非常に重要なテーマ。今後も続けてほしい／ゾーニングの難しさが身にしました

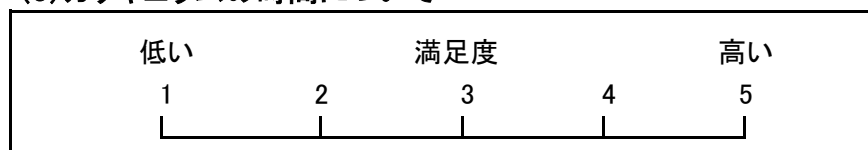
(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 外部講師の話をもっと聞きたかった／広葉樹林化の成功事例を知りたかった
- 4 (6 名) 充実した内容で満足している／広葉樹についてさらに聞きたかった
- 5 (4 名) 外部講師の講義が素晴らしかった／講義・現地・検討発表のバランスが良かった

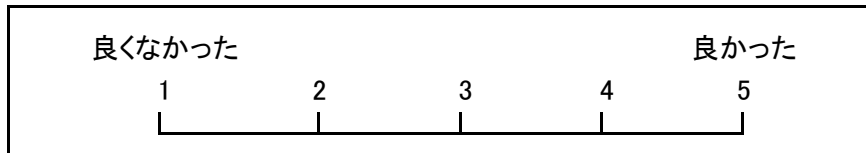
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.0

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 時間が短い。3泊4日でも良い／3日目は夕方までではどうか
- 4 (5 名) 適切だった／事前課題等を活用すれば検討項目の数や内容をさらにできるのでは
- 5 (3 名) 2泊3日はちょうど良いが、グループワークをするには短い

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (2 名) 時間通りで、進行・運営とも問題なかった
- 5 (8 名) 時間配分など細かく設定されていて、大変良かった／スムーズな流れだった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 地域による施業体系の違いを実際に目にすることができて良かった
- ・ 天然更新と列状間伐の可能性を感じた。スギ・ヒノキの天然更新もモデル林を作ってほしい。外部講師の話がわかりやすく、とても良かった
- ・ 現地での検討による体感、班の様々な役職の方との交流が、非常に有意義だった
- ・ 班付き講師の方々にいろいろな情報やアドバイスをいただき、グループ発表内容を一つにまとめることができたと思う
- ・ コロナ感染拡大により延期となった中、開催されて有り難かった
- ・ 植物（下層植生・樹木）の同定の必要性を当研修や普段の業務でも感じている
- ・ テーマは非常に良いと思う。カリキュラムの修正（「多様な森林づくりの構想について」の講義を長く、「今後の森林づくりの考え方について」の講義を短く、広葉樹林の成功事例の紹介）を検討いただければと思う
- ・ ブロック毎にテーマが設定されているので、各ブロックでいろいろなテーマを行ってほしい
- ・ 他の班との交流があれば良かった

4. 四国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和3年11月17日(水)～11月19日(金)
研修会場 四国森林管理局(高知県高知市)
現地実習 栃ノ木谷山国有林3227林班(高知県中土佐町)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:9名 女性:3名]
(県職員6名、村職員1名、森林管理局職員5名)

愛知県	1名	奈良県	1名	香川県	1名	愛媛県	1名	高知県	2名
十津川村	1名	森林管理局	5名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式で四国森林管理局武田部長、林野庁研究指導課吉岡課長補佐の挨拶の後、(株)サイプレススナダヤ砂田社長よりCLTの生産状況や課題、展望、ウッドショックの内容が組み込まれた講義があり、受講生は熱心に耳を傾けていた。続いて、集材架線システムの概略説明、資料作成の講義後、各班が搬出系統図の検討・作成に取り組んだ。

・2日目は前日の検討を踏まえ、各班が、①3本の伐採木を利用しての採材研修、②須崎地区森林組合が間伐施業を行っている栃ノ木谷山国有林での現地踏査を行った。その後会場に戻り、森林管理局に設置されている集材模型による操作の体験後、現地実習を踏まえ、架線システム資料作成に取り組んだ。

・3日目は市町村等の林務担当者向けという条件のもと、班ごとに集材架線システム関連資料作成及びスライドによる発表、質疑応答と続き、閉講式は森林技術・支援センター鷹野所長の挨拶で本研修を終了した。

・全体としては、四国ブロックの特徴である架線集材を主題に位置づけ、講義→班内検討→現地実習・演習→発表・意見交換と、受講生にとって林業実務への広範な対応に資する内容であった。

○今回の研修の工夫点

・現地実習地での講義に際し50インチモニターに投影することで受講生の理解を深めることができた。

4 記録写真



搬出系統図(架線・作業道)検討・作成:1日目



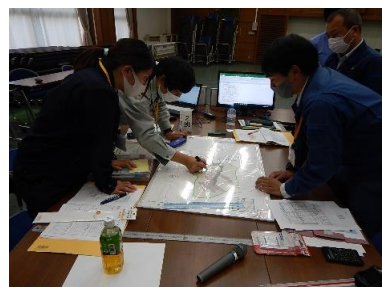
外部講師による採材研修の説明の様子:2日目



外部講師による架線集材の講義の様子:2日目



架線集材模型(エンドレス方式)の見学・集材機操作実習:2日目



発表用の搬出システム資料の作成:2～3日目



班ごとに作成したスライドの発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	<p>①架線システム検討が現地実習地での既設の架線システムに捉われるため、各班の検討の幅が狭くなったように見受けられた。</p> <p>②各班で間伐方法を列状間伐か定性間伐にするかを決定するが、特に国有林受講生が国有林の考え方(列状間伐)に偏る傾向があった。</p>	<p>①架線作設個所と架線検討個所を分けて実施することを検討。その場合、国有林内に演習地がない場合は、民有林も対象個所に入れることや、実習地と研修会場とのアクセスに制約されない場所も検討する必要がある。</p> <p>②業務の延長ではなく、各班が合意形成を取りながら幅広い視野で検討することを促す説明が必要。</p>
講義・演習	<p>○架線集材の説明について、より分かりやすくできないか。</p>	<p>○架線集材の代表例(エンドレスタイラー式等)のアニメによる説明が可能なら、実習時も含め理解しやすいのではないか。</p>
現地実習	<p>①採材研修において各班の検討内容を発表したが出ない傾向があった。</p> <p>②間伐施業を実施している現地実習地で講義をしたが、作業中の機械が動いていたため講師の講義や受講生の質問が聞き取りにくかった。</p>	<p>①各班が一方向的な発表で終わらないよう、質問の仕方に工夫が必要。</p> <p>②現地実習地での講義は機械から離れたところで行うことが望ましい。</p>
その他	<p>特記事項なし。</p>	<p>特記事項なし。</p>

(3)アンケート結果

回収率: 12名/12名(100%)

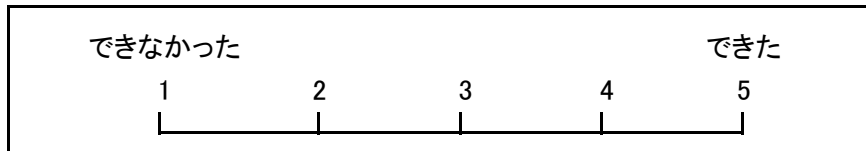
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (3名)
- 2 : 資格なし (9名)

II 本研修に対する理解度、活用度

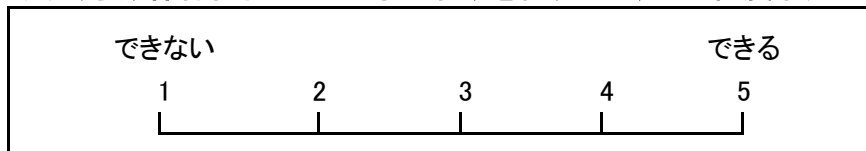
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (1名) 架線に関する基礎知識がなく、作業システムを立てたり収支の予測が難しかった
- 3 (0名)
- 4 (9名) 集材システムで架線を検討することの必要性は理解できた／架線の知識が深まった
- 5 (2名)

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

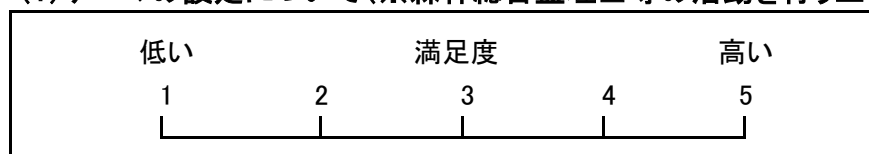


平均: 3.7

- 1 (1名)
- 2 (0名)
- 3 (4名) 今回の経験を生かし架線技術の大切さを広めていければと思う
- 4 (4名) 採材についてはすぐ活用でき架線については今後の普及課題とする
- 5 (3名) 架線活用の可能性について提案していきたい

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

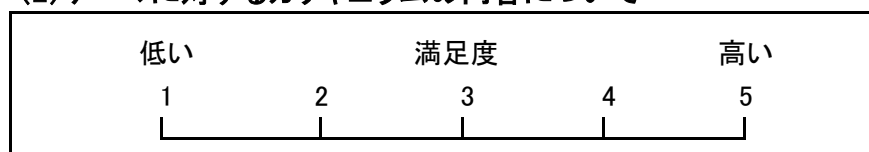
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (6 名) 急傾斜地でも林業はできるという林業の可能性を感じた
- 5 (5 名) 本県職員にとっては重要なテーマ

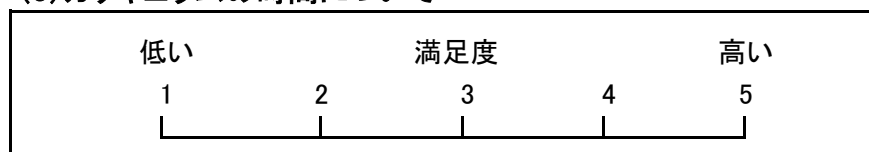
(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (7 名) 現地や収支を含めた議論もでき参考になった／操作体験により理解が深まった
- 5 (4 名) 架線について実践的な内容になっていた

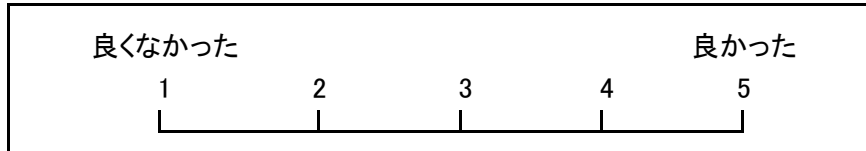
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 要点が濃く盛り込まれていた／少し慌ただしかった
- 4 (4 名) コスト計算の講義の時間がもう少しあってもよかった
- 5 (2 名) 時間内に完了することができた

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) スムーズに進行していた／講師側のサポートが充実していた
- 5 (7 名) 手厚くフォローいただいた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 模型による解説が大変分かりやすかった
- ・ 集材機の操作体験ができてよかった
- ・ 立場の違う方と話をすることにより得るものがあり参加してよかった
- ・ 小さな林業も見てみたい
- ・ 車両系と架線系の搬出経費についてももう少し具体的に知りたいと思った

Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

1. 研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む)
意見等
研修目標に見合った研修内容となっていたと思う。 受講生はおしなべて意欲と能力が高く、タイトなスケジュールの中でも与えられた課題に高い水準で応えている印象。施業案の作成という本研修での主要課題に対してはすでに高度な知識と能力を持った方たちばかりだったが、木材の需要がどのように決まっていくかという、林業経営上は重要でありながらあまり知られていないことについて、知っていただくきっかけになったという意味で、当方の講義にも意味があったのではないかと感想を持った。
外的要因から国産材が高騰しているので、販売状況と流通の話をした。今後の木材相場動向を、皆さん興味深く聞いていた。
研修プログラムに問題点はないと思った。 講義と実習、現場確認、取りまとめ、発表、の一連のグループワークで、森林の機能に基づいたゾーニングをする上で基本となる考え方を習得していただけたのではないかと思う。
受講生は採材について未経験者が多いという事だったが、素直に真面目に取り組んでいただき、非常に実り多い研修になったのではないか。 対象木3本について非常に頭を悩ますような材を森林組合に選定していただき、そのお陰で各班がまとまり、その事がより一層内容を濃くしていたのではないかと感じた。 最後の講評では時間が押している状況で、少し長引かせてしまった事を反省しているが、その際に多くの質問が出たことが何よりの収穫だったのではないか。
現地を見ていただき、説明の時もしっかり聞いていただけたので架線現場とはこういう感じだという事を感じてもらえたと思う。

2. 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか
意見等
講義時間について、全体的にスケジュールはタイトだが、やむを得ないと思うし、不十分とまでは思わない。現地実習の設定も施業案作成のための森林現況の把握と木材需要産業としての集成材工場であり、適切だったと考える。
60分間は適切だった。
講義時間は適切と思うが、現地踏査とその取りまとめ、グループ発表に向けた準備が、すこし時間がタイトだったのではないかと思う。

意見等

研修場所としては全く問題なく、最適な研修場所であったと感じている。
各班ともに3本の採材に多くの時間を取組んだ事もあり、最後の講評を急ぎ足で進めてしまったため、その内容が受講生に伝わったかどうか不安はあったが、研修時間を長くすれば間延びしてしまう可能性がある事を考えれば、今回の様な短時間に内容を凝縮して進めることが最適であったと感じている。

現地移動を含めると、時間が押してしまうのでそれなりに時間を気にして対応していかなければならないと思った。

3. その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい

意見等

最終日の施業案発表の際にもプレゼンテーションやその後のディスカッションで出ていた、「天然林をどう取り扱うか」「広葉樹材需給の変動にどう対応していくべきか」というようなニーズに応じていける研修になればいいと思うが、現状でも非常にタイトなスケジュールのため、やむを得ないと思う。

コロナ禍で懇親会等の設定はなかったが、ネットワークづくりが大事なので、今後も受講生が情報交換できる場があるとよいと思う。
このカリキュラムは現地踏査がかかせない内容となっており、天気が悪く現地に行けない場合の対応についても準備しておく必要があると感じた。

説明などするとき、機械の近くは音で気が散り聞こえづらいため、現地概要説明箇所等は考えるべきだと思った。

2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「森林総合監理士資格の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 46 人中 46 人(回答率 100%)であった。

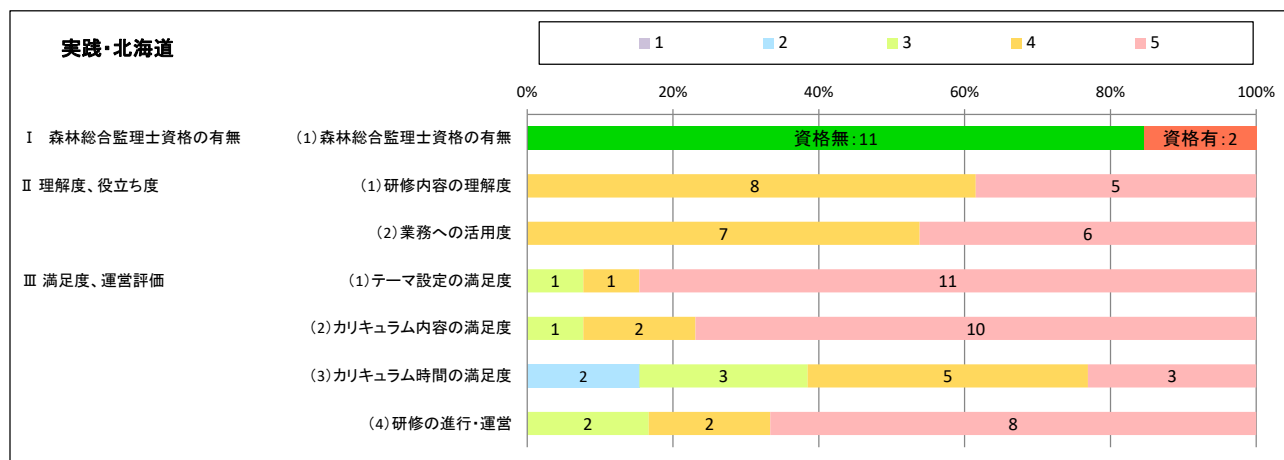
アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」は 1 (資格あり)、2 (資格なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

「森林総合監理士資格の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)～(4)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

新型コロナウイルス感染防止対策を取り 2 泊 3 日で実施したが、東北ブロックは開催を中止した。

(1)北海道ブロック

テーマ:資源循環利用構想実習 ～木材供給ビジョンを考える～



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 15%、資格なしが 85%であった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は 5 と 4 の回答で 100%を占め、昨年度(令和 2 : 83%)を上回り、全ブロックのなかで近畿中国ブロックと並んで最も高かった。「多角的な木材利用や経営プランを学べた」、「森林所有者や事業体と共有したい」、「施業案を作成する際にあらゆる情報を集めて作らなければならないことが分かった」などのコメントが寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

③業務への活用度

「業務への活用度」は 5 と 4 の回答で 100%を占め、昨年度(令和 2 : 58%)を大幅に上昇し、全

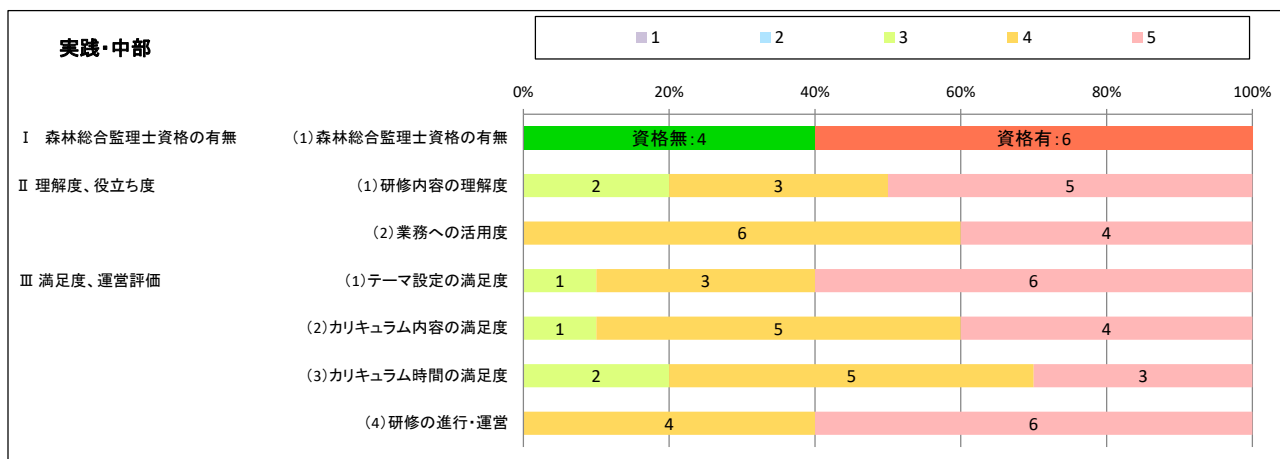
ブロックの中で最も高かった。「色々な考え方を聞くことができ、職場へ帰っても活用できそう」、「構想を実現するための進め方について活用したい」、「色々な視点が必要と感じた」など、業務への活用に前向きなコメントが多く寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が92%と昨年度(令和2：75%)を上回り、全ブロックの中で最も高かった。「地域の課題と合致していた」、「必要なテーマである」等のコメントが多く寄せられ、受講生が必要としているテーマであったことで満足度が高かったと考えられる。

(2)中部ブロック

テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が60%、資格なしが40%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が80%を占め、昨年度(令和2：75%)とほぼ同様に高い理解度だった。「架線型集材の知識を知ることができたためになった」、「資料、動画も分かりやすかった」といったコメントが寄せられた。また、3以下の評価の受講生は「実際に架線の現場を見たことがなくうまくイメージができなかった点があった」といった初めて架線の現場を視察したことによるものだった。

③業務への活用度

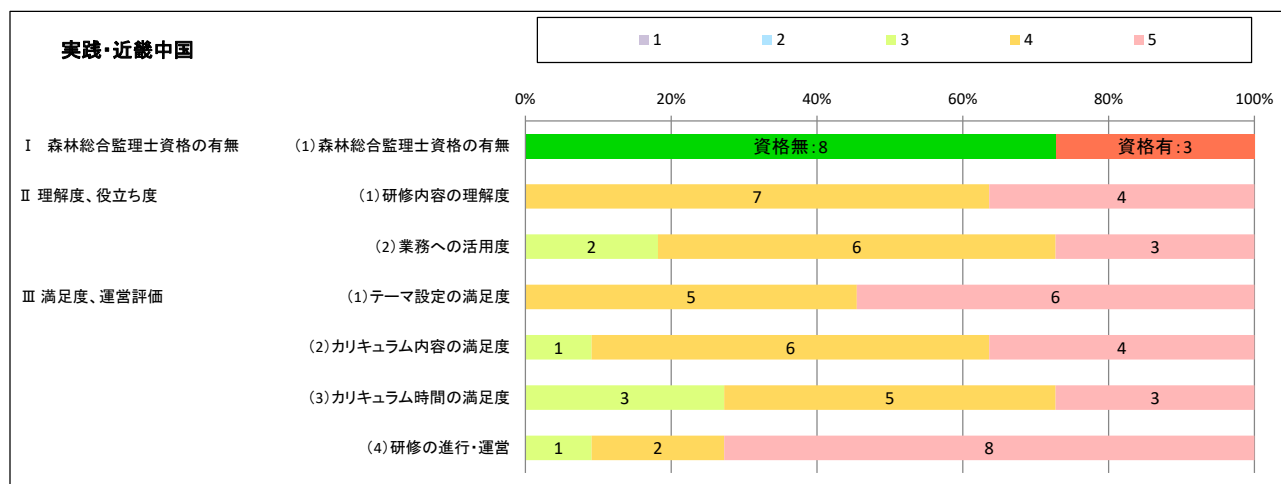
「業務への活用度」は5と4の回答が100%を占め、昨年度(令和2：75%)より上昇した。「場所によっては必ず架線集材を選択するため、提案に向けて活用できる」、「架線及び造林指導で活用できる」といった今後の業務に幅が出る前向きなコメントが寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が90%で、昨年度(令和2：83%)より若干高くなった。「架線、一貫作業に関しては実習を含め初めてだったので貴重」、「架線集材を学ぶ場所は少ないため良いと思う」、「日頃触れる機会の少ないテーマ」などの意見が寄せられ、架線の経験がない受講生が非常に満足するテーマだったことがうかがえた。

(3)近畿中国ブロック

テーマ:一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が27%、資格なしが73%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が100%で、昨年度(令和2:89%)よりも高い評価となり、「非常に分かりやすい講義だった」、「ゾーニングのポイントを理解した」などのコメントが寄せられた。

③業務への活用度

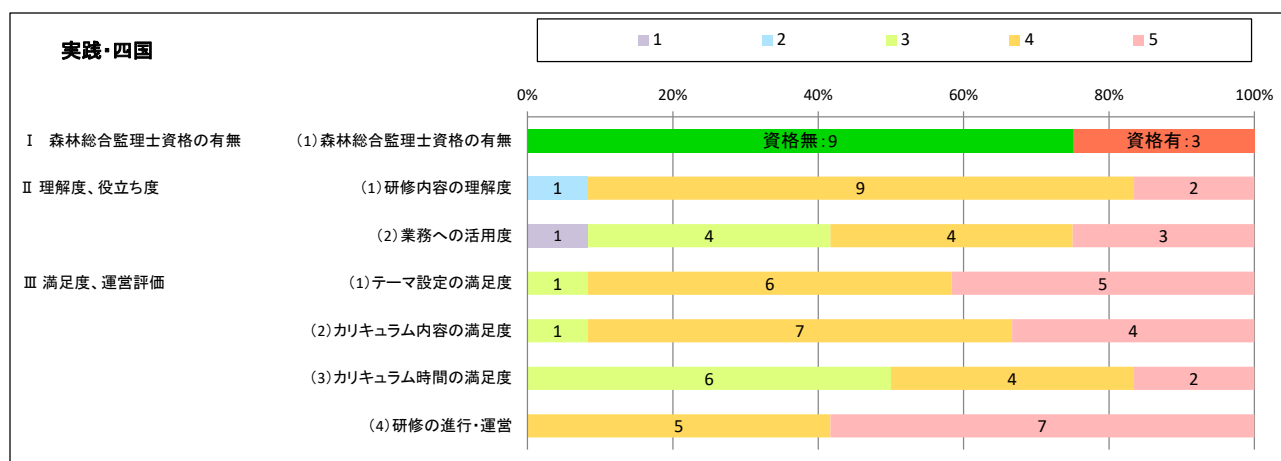
「業務への活用度」は5と4の回答が82%と昨年度(令和2:88%)同等に高く、「森林総合監理士以外の日常業務にも活用できる」や「説明がしやすくなった」というコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる意見が多く寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が91%と昨年度(令和2:100%)同等に高かった。「講義・現地・検討発表のバランスが良かった」、「満足している。充実した内容だった」など、満足度が非常に高く、「広葉樹林化の成功事例を知りたかった」、「広葉樹についての話をもっと聞きたかった」等、「もっと知りたい」という声が多く寄せられた。

(4)四国ブロック

テーマ:地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が25%、資格なしが75%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が92%で、昨年度(令和2：38%)より大幅に上昇した。「架線に関する知識が深まった」、「集材システムで架線を検討することの必要性は理解できた」といったコメントが寄せられ、おおむね理解されたことがうかがえる。また、評価の低い受講生は「架線に関する基礎知識がなく、作業システムを立てたり収支の予測が難しかった」といった自身の知識不足によるものだった。

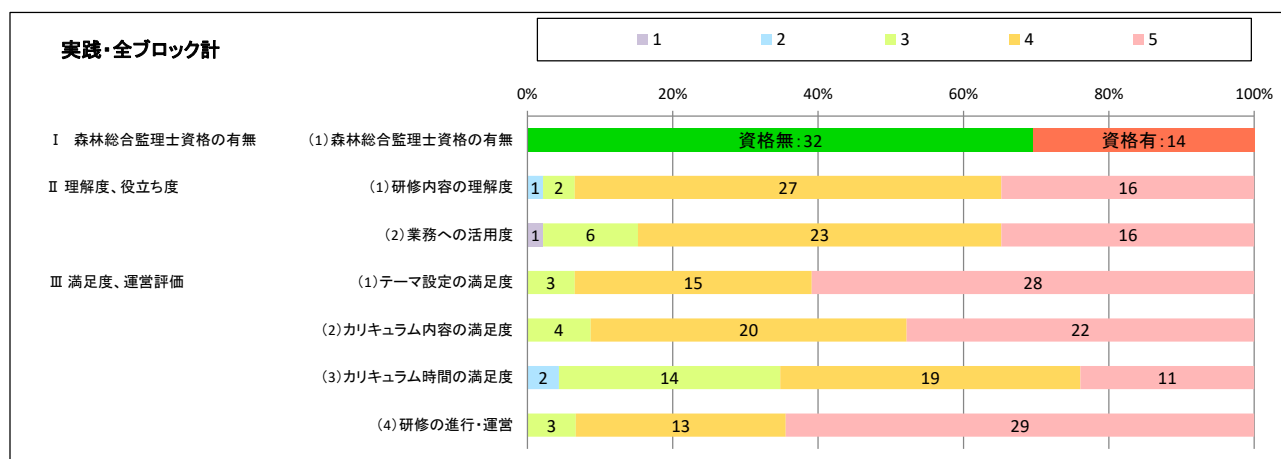
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が58%(令和2：40%)と若干低めだったが、「今回の経験を生かし架線技術の大切さを広めていければと思う」、「架線活用の可能性について提案していきたい」、「採材についてはすぐ活用でき架線については今後の普及課題とする」といった今後の業務活用に前向きなコメントが寄せられた。なお1の回答をした受講生がいたが、特に詳細な理由は明記されていなかった。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が92%で、昨年度(令和2：56%)より上昇した。「急傾斜地でも林業はできるという林業の可能性を感じた」といったコメントに代表されるように、架線の経験がない受講生にとっても有効なテーマであったことが推察される。

3. アンケート結果の概要(全体)



(1) 森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は各ブロックさまざまだが、中部は森林総合監理士が半数を占め、その他のブロックは2割前後が森林総合監理士で、全体では森林総合監理士が30%、資格なしが70%であった。

(2) 研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」93%（令和2：75%）、「業務への活用度」85%（令和2：69%）、「テーマ設定の満足度」93%（令和2：81%）と昨年度と比べ全ての項目で評価が高くなった。またブロックごとでは、「研修内容の理解度」80～100%（令和2：38～100%）、「業務への活用度」58～100%（令和2：40～92%）、「テーマ設定の満足度」90～100%（令和2：56～100%）（※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照）と、設問項目によってバラつきがあるものの総じて昨年度より高評価であった。

① 研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、全ブロックとも5と4の回答で8割以上を占め、講師陣の講義・資料が分かりやすく丁寧だったことや、ブロックによってテーマが異なるが問題点や難しさ等の説明があったことにより今後の課題が理解できたことが高評価につながったとうかがえる。特に北海道、近畿中国が高い評価であった。他方、高評価の中にも、カリキュラム内容に関する知識がないうえでの参加だった受講生による自身の知識不足を述べるコメントも寄せられた。

② 業務への活用度

「業務への活用度」は、例年、各ブロックで研修テーマが異なっていることからブロックによって評価にバラつきが出るが（※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照）、今年度も同様の結果だった。5と4の回答では、「色々な考え方を聞くことができ職場へ帰っても活用できそう」、「構想を実現するための進め方について活用したい」、「提案に向けて活用できる」などのコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる。特に、北海道と中部は高い評価であった。また、3以下の回答からも「今回の経験を生かし架線技術の大切さを広めていければと思う」といった意見があり、今後の業務につながる内容であったことがうかがえた。

③ テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は、全ブロックとも5と4の回答で9割以上を占め、「本県職員にとっては重要なテーマ」、「地域の課題と合致していた」といったコメントが多く寄せられ、受講生にとってタイムリーかつ必要とされるテーマであったことが評価につながったと推察される。特に北海道

は5の割合が8割以上を占め高い満足度だった。また、「架線、一貫作業に関しては実習を含め初めてだったので貴重」、「日頃触れる機会の少ないテーマ」等、経常業務ではあまり触れることのないカリキュラム内容だった受講生からも高評価のコメントが寄せられた。

(3)カリキュラム内容・時間の満足度

①カリキュラム内容の満足度

「カリキュラム内容の満足度」は、例年ブロックによって評価にバラつきが出る項目だが、今年度は5と4の回答で91%(令和2：72%)を占め、全ブロックとも高評価であった。「活用していく上で必要な内容だった」、「講義内容が参考になった」、「講義・現地・検討発表のバランスが良かった」等のコメントが寄せられ、今後の業務に役立つ内容だったことはもちろんだが、カリキュラム内容・構成が高い満足度につながったと推察される。特に北海道は5の割合が8割以上を占め高い満足度だった。

②カリキュラム時間の満足度

「カリキュラム時間」に対する満足度は、5と4の回答が65%(令和2：62%)で、昨年度とほぼ同様であった。ブロックごとで見ると50～80%(令和2：17～78%) (※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と若干バラつきがあったが、昨年度と比較するとバラつきが小さされた結果となった。本研修は全ブロック2泊3日の日程で実施しているが、「通常業務があるのでこの位の時間がありがたく、ちょうど良い」といった参加しやすい日程期間が評価されている点である一方、「考えをまとめる時間の余裕がなかった」、「少し慌ただしかった」、「もう少し議論する時間があってもよい」といったコメントが見られた。例年課題にあがっているが、本研修は、演習・検討後に各班が発表を行う構成にしていることから、ディスカッションや演習時間の確保がどれだけできるかが受講生の満足度にもつながると推察される。限られた時間の中で何を重点に置いた配分にするか、引き続き検討課題と言える。

(4)研修の進行・運営

「研修の進行・運営」は、5と4の回答が93%(令和2：79%)で、昨年度も高評価であったが、更に上昇し、例年、本項目はブロックによってバラつきが生じるが、今年度はブロックごとでも83～100%(令和2：58～100%) (※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、全ブロック総じて高評価であった。「講師のアドバイスが適切に入り助かった」、「講師側のサポートが充実していた」、「スムーズで分かりやすかった」といったコメントが全ブロックから寄せられ、的確にアドバイスを行う講師面の充実や、滞りなく進行されたことが高評価につながったと推察される。

(5)その他感想、来年に向けての提案など

ブロックごとに取り扱う研修テーマが異なっていることから感想等はさまざまであるが、「国、道、市町村それぞれの考え方が聞けてよかった。今後も継続してほしい」、「現地での検討による体感、班の様々な役職の方との交流が非常に有意義だった」等のコメントが複数のブロックで寄せられ、同じ立場のみならず、多様な属性や現場経験を持った受講生が集うことは本研修のメリットと言え、受講生同士から多くの刺激や学びがあったと推察される。また、「ブロック毎にテーマが設定されているので、各ブロックでいろいろなテーマを行ってほしい」といった、カリキュラムの多様性を評価するコメントも寄せられた。

4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は、外部講師との兼ね合いについても考慮する。 ・グループ演習の時間が足りないとの声もあることから、グループ演習時間の拡大を検討する。 	特記事項なし。
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・各班が伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画を検討し、植栽、流通までを発表したが、収支まで検討した班が少なかったため、説明資料など検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生から実際に架線集材の現場を見たかったという意見が多く寄せられ、次年度はタイムスケジュールを考慮しながら準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生1名がマスクを着用しない場面が多くあり、他の受講生から指摘があった。マスク着用の周知及び注意喚起を徹底する。
近畿 中国	特記事項なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・K J法について詳しく説明できなかったことから、今後は詳しく説明する。 ・外部講師と内部講師の資料に重複した箇所があったため、事前にすり合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の関係で他の班の受講生との交流が図りづらい。
四国	<ul style="list-style-type: none"> ・架線システム検討が現地実習地での既設の架線システムに捉われるため、各班の検討の幅が狭くなったように見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採材研修において各班の検討内容を発表した。質問が出ない傾向があった。各班が一方向的な発表で終わらないよう、質問の仕方に工夫が必要。 	特記事項なし。

5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が大きな役割を果たす中で、東北ブロックがコロナウイルス感染状況により開催中止、他4ブロックは当初予定の日程から開催時期を延期したものの、開催した各ブロックともカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

本研修は、市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等を対象、全ブロック2泊3日で実施した。受講生の平均年齢は昨年度より若干低下した(令和2:45.1歳→令和3:40.0歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

(1)ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・総じてアンケートの評価は高いが「カリキュラム時間の満足度」が他項目と比べ若干評価が低く、「それぞれの時間が短い」、「考えをまとめる時間の余裕がなかった」といったコメントが寄せられ、限られた時間の中で時間配分の検討が必要。	・アンケートでも時間不足を指摘する意見が寄せられており、グループ演習時間の拡大を検討する。
中部	・受講生によっては馴染みの少ない架線をテーマに取り扱っていることから「実際に架線の現場を見たことがなくうまくイメージができなかった点があった」、「架線系の基礎知識がなかったので、関連した講義があるとうれしかった」といったコメントが寄せられ、受講生自身の知識不足はあるものの、こういった内容を講義資料・演習内容に盛り込むか、整理・検討が必要。	・受講生からも要望が寄せられているが、次年度は実際の架線集材の現場確認をカリキュラムに盛り込めるか、タイムスケジュールを考慮しながら検討が必要。
近畿中国	・総じてアンケートの評価は高いが「カリキュラム時間の満足度」が他項目と比べ若干評価が低く、5と回答としたコメントにおいても「2泊3日はちょうど良いが、グループワークをするには短い」と寄せられ、限られた時間の中で時間配分の検討が必要。	・外部講師と内部講師の資料に重複した箇所があったため、事前にすり合わせが必要。
四国	・架線集材というコアな内容を扱っており、本研修テーマに馴染みが少ない受講生も少なからずいたことから「業務への活用度」の評価が若干低かった。また、「カリキュラム時間の満足度」においても「少し慌ただしかった」等の意見も寄せられ、時間配分は検討が必要である。	・架線システム検討が現地実習地での既設の架線システムに捉われ、各班の検討の幅が狭くなったように見受けられた。架線作設個所と架線検討個所を分けて実施することを検討する。

(2)全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」以外は、全項目5段階評価で実施した。「研修内容の理解度」、「テーマ設定の満足度」は、今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは特に評価は高く、また、受講生によっては経常業務であまり触れることのないテーマを扱ったブロックにおいても貴重な経験や新たな知識が積めたことにより、高い評価につながった。

「業務への活用度」は5と4の割合が58～100%とブロックによってバラつきがあった。今後の業務において、活用度の高さをうかがえるコメントも多く寄せられたが、「テーマ設定の満足度」でも挙げたとおり、現在の業務に直結した受講生のみが参加していないことも評価のバラつきに影響していると推察される。

「カリキュラム内容」に対する満足度は5と4の割合においてブロックによってバラつきが生じる項目だが、今年度は全ブロックとも高評価であった。他方、「カリキュラム時間」に対する満足度は5と4の割合が50～80%とブロックによって若干バラつきがあり、この回答結果は昨年度と同様である。「検討・ディスカッションの時間が短い」などのコメントが見られ、本研修は、室内講義・現地実習・班内検討・発表で構成されていることから、限られた時間内での時間配分は今後も検討課題と言える。

「研修の進行・運営」は5と4の割合においてブロックによってバラつきが生じる項目だが、今年度は全ブロックとも高評価であった。全ブロックからスムーズな進行、講師面が充実していたといったコメントが寄せられ、おおむね問題なく、進行・運営されたことがうかがえる。今後も、限られた時間内においてカリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を精査し、今年度課題となったことを含め、さらに改善していくことが重要である。

(3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)

各ブロックでカリキュラムや現地実習地での演習内容、室内演習において各班が使用するソフト等が異なるため、課題にそれぞれ違いはあるが、受講生に多くの気づきを持ち帰ってもらうことはもちろんのこと、地域に戻って指導や助言を行う際のヒント、今後の業務につながる講義・演習とすることが重要である。限られた時間内で何に重点を置くか、受講生からのアンケートも参考に、演習地の選定、時間配分等検討が必要である。

6. 総括

(1)全体設計

本研修は、市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としている。そのため今年度も森林総合監理士も主たる受講対象としたが、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあった。森林総合監理士のブロックごとの参加率は15～60%（昨年度（令和2：19～58%））と差があり、また、研修受講者数については新型コロナウイルスの影響から、4ブロックで研修日程を当初予定から延期して対応した。しかしながら日程変更により業務の都合等で参加できなくなった受講生もいたことから、各ブロックの受講者数が10～13名と少なめの傾向だった。本研修は、講義のみではなく、室内演習・現地実習・ディスカッションを含めた技術水準の維持・向上を図るうえで意義のある研修である。受講者数の確保のために、その研修の概要等を広く周知する仕方を含め、検討が必要であると考えらる。

(2)テーマ・カリキュラム

テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえて設定している。北海道ブロックの森林整備の戦略及び地域の将来ビジョン等、今課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱った研修は特に評価が高かった。森林総合監理士や技術者が市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的でなおかつ、今後業務で活用できるテーマを選定することが引き続き重要である。

カリキュラム内容については、全ブロックとも高評価であった。今後も、講義・現地実習・検討発表等の構成・バランスを検討し準備することが必要である。

カリキュラム時間の評価については昨年度同様ブロックによって若干バラつきがあった。本研修は演習がメインの構成となっていることもあり、「検討・ディスカッションの時間が短い」といったコメントが寄せられ、限られた時間内での時間配分は今後も検討課題と言える。詰め込み過ぎないようどこに重点を置くか精査し、現地実習や演習をどのように組み込むことができるか、今後も検討が必要である。また、過年度の演習や発表では、紙図面やKP（紙芝居プレゼンテーション）の活用が主であったが、演習内容や発表形式も変化しており、全ブロックともパソコンやICT機器を取り入れているため、演習のシミュレーションは重要である。

(3)研修運営

本研修は昨年度まで6ブロックの開催だったが、今年度から5ブロックでの開催となり、また、今年度は東北ブロックがコロナウイルス感染状況により開催が中止となった。昨年度から新型コロナウイルスの影響を受けているが、研修の開催にあたっては安心して受講生や関係者が研修に集中できる環境を整えることが重要である。定員に余裕のある広い会場を確保するとともに、換気や日々の体調管理、マスクの着用、マイクや備品等の消毒を実施した。また、全ブロックとも現地実習地への移動において、バスの乗車人数が密にならないよう配慮した台数を確保し対策を講じた。今年度も受講生等研修参加者は、研修2週間前から自身の「体温・体調等記録用紙」を記入し、最終日に提出することとした。また、受講後2週間以内に体調の悪化が生じた場合は統括事務局へ連絡することとしたが、研修中及び後日においても参加者からの連絡はなかった。

その他にも、過年度までの経験から受講生等が必要としていることを事前に想定し、先を見据えた備品・資機材の用意等、準備を行った。

本研修では、テーマやカリキュラムは森林管理局が作成した。統括事務局ではブロックごとに担

当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整を密に図った。また、統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整え、研修担当者の経験等により差異が生じないように、定期的に統括事務局とブロック事務局間で情報の共有を図った。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営した。過年度の実践研修の経験や知識が蓄積されていることから、おおむねスムーズに運営できた。

本研修は現地実習を伴うことから、雨天時のタイムスケジュール作成や対策等、継続して準備していく必要がある。今後も各ブロックでの良い点や工夫点を全ブロックで共有し、良い点は取り入れていくことも円滑な研修運営につながると考えられ、さまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

(4)おわりに

現地検討及び討議・発表を通じて、ブロックごとのテーマに沿って課題解決策を共有する研修を実施した。本研修は、外部講師・森林管理局講師からだけではなく、県職員や国有林職員、整備センター職員、民間受講生といった日頃経常業務では集うことがない多様な属性の受講生同士が意見交換し、双方向から学びのあるカリキュラム構成となっている。今後も受講生が森林総合監理士等として市町村の森林・林業行政を技術面で支援する際に役立つ研修となるように、今年度参加した受講生からの声や運営側から見えた課題をふまえ、研修を改善していくことが重要である。

情報共有ネットワーク化

情報共有ネットワーク化

I. サイトの開設状況

1. 技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト

(1)目的

実践研修の実施概要、森林総合監理士のPR等を掲載し、広く一般への本事業の理解促進に資する。

(2)対象者

一般国民、森林・林業関係者、実践研修の対象者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ ※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

- ・ 事業概要：本事業実施の目的、本事業の概要
- ・ 実践研修：研修の目的、対象者、研修概要、研修実施時期等
- ・ 森林総合監理士PR：サイトの概要
- ・ 森林総合監理士ネットワークサイト：サイトの概要



▲トップページ



▲事業概要(部分表示)



▲本年度更新ページ(部分表示)

2. 実践研修受講生向けサイト

(1)目的

実践研修受講生への情報提供・共有の場を提供することにより、受講生のフォローアップに資する。

(2)対象者

令和3年度実践研修受講生、研修運営に関わる者(林野庁・森林管理局の研修講師および研修運営関係者)

※対象者のみのログイン制

(3)構成・イメージ

○コンテンツ ※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

- ・ブロック研修回ごとの配布資料PDF
- ・ブロック研修回ごとの実施報告書PDF
- ・森林総合監理士(フォレストラー)基本テキスト(令和3年度版)PDF

【参考：令和2年度実践研修】

- ・ブロック研修回ごとの配布資料PDF
- ・ブロック研修回ごとの実施報告書PDF

技術力維持・向上対策研修運営委託事業 実践研修 受講生サイト

新着情報

- 2021.12.15 近畿中国ブロックの実施報告書と研修資料をアップしました。
- 2021.12.10 北海道、中部、四国ブロックの実施報告書と研修資料をアップしました。
- 2021.8.16 参考情報：森林総合監理士(フォレスター) 基本テキスト
【令和3年度 PDF版(林野庁HPにてダウンロード可)】
- 2021.8.16 研修実施後に実施報告書を掲載します。
参考までに昨年度の研修実施報告書・研修資料を掲載しています。
- 2021.8.16 令和3年度 技術力維持・向上対策研修(実践研修) 受講生サイトをオープンしました。

↑ PAGE TOP

令和3年度

- 北海道
- 東北
- 関東
- 中部
- 近畿中国
- 四国
- 九州

令和2年度

- 北海道
- 東北
- 関東
- 中部
- 近畿中国
- 四国
- 九州

▲トップページ

四国ブロック		
研修資料		
日程	講義等の内容	資料名
1日目	【講義】 大型製材工場の現状と課題 地域の特性に合った木材関連等	●講師：杉田 和之(株式会社サイプレス・スナダマ)
	【講義】 集材架線システムの資料作成の説明(コスト計算等) GIS操作手法	●講師：大川 晋平(高知県森林組合連合会 高橋共修所) 受講生発表資料 発表/パネル
	【実習】 肌上にて1/5000図面に集材架線図(集材線・箇所)を記入	●講師：木部田 花一(高知県森林組合)
2日目	【現地実習】 集材架線図の見学及び説明	●講師：大川 晋平(高知県森林組合連合会 高橋共修所) 受講生発表資料 発表/パネル
	【実習】 簡単な集材架線図の見学及び操作説明	●講師：木部田 花一(高知県森林組合)
	【実習】 各組で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成	●講師：大川 晋平(高知県森林組合連合会 高橋共修所) 受講生発表資料 発表/パネル
3日目	【発表】 集材架線システムの発表	受講生発表資料 パワーポイント


▲本年度更新ページ(部分表示): 研修資料>四国ブロック

8 収穫、集材方法などの検討

5 集材架線等を指定した計測線の断面図を表示

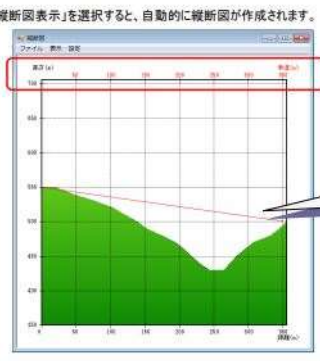
□図上計測機能を用いて書き込んだ計測線に対する縦断面を表示する。

(1) 2で一度作成した計測線について、ローカルメニューの縦断面表示を選択します。
処理したい計測線を指定してマウスを右クリックして、ローカルメニューの「縦断面表示」を選択します。



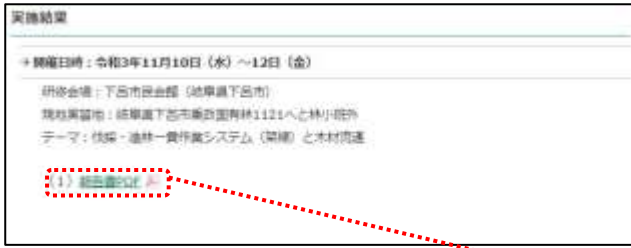
右クリックをするこのように表示されますので「縦断面表示」を選択します。

(2) 「縦断面表示」を選択すると、自動的に縦断面図が作成されます。



始点-終点を結んだ集材道の長さ(距離)の目盛りです

始点-終点を結んだ集材道が赤色で表示されます。



▲本年度更新ページ(部分表示):
実施報告書>中部ブロック

実践研修 実施報告書(中部ブロック)

1 日程・研修場所 令和3年11月10日(水)～11月12日(金)
研修会場 下高市公会館(岐阜県下高市)
現地実習 下高市農政園有林外(岐阜県下高市)

2 研修受講者数: 10名 [男性: 9名 女性: 1名]
(県職員8名、森林整備センター職員2名、森林管理用職員2名)

富山県	1名	石川県	1名	静岡県	1名	愛知県	1名	京都府	1名
鳥取県	1名	森林整備センター	2名	森林管理用	2名				

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など
 ・9月14日～18日に実施する予定だったが、コロナウイルス感染状況により日程を延期しての実施となった。また、当初16名の参加予定であったが、10名での実施となった。
 ・1日目、欠席・遅刻なく集合し、中部森林管理用職員企業官の進行により開講。森林整備部山口部長による挨拶の後、講師紹介を行い、伐採・造林一貫作業システム、採材・仕分けの講義や伐採計画の講義などを実施した。
 ・2日目、天候は曇りで気温が低い中、現地実習が進められた。伐採造林一貫作業システムの現場を見学し、被害対策の設置、薪割の詳細、作業道についてなど活発な質問がなされていた。下高市市場にて市理事長から木材販売の講義及び市場内を見学、木材の利用詳細などの説明を受けた。
 ・3日目、各社の発表に対し活発な意見交換や質問等が行われた。発表後の講師陣からのフィードバックも行われ充実した内容であった。
 ・当初の日程より2ヶ月間延期しての実施となったが、コロナウイルス感染症対策もしっかり行い、スケジュールや時間調整など柔軟に対応し、予定通りのカリキュラムを実施することができた。
 ○今回の研修の工夫点
 ・参加人数は少なかったが、広さのある会場が確保できていたため感染対策にはよかった。
 ・日程変更の影響により実習の実績集材が受けられなかったが、別途写真及び映像で説明、補充した。

4 記録写真

3. 森林総合監理士PRサイト

(1)目的

森林総合監理士活動への需要者(市町村、事業者、森林所有者等)に向けた、森林総合監理士活動の需要拡大を支援(PR)することに資する。

森林総合監理士の役割、機能、「依頼できること」、「森林総合監理士とともに実現できること」などをわかりやすく紹介し、森林総合監理士の登場で地域森林経営をどのように向上できるのか、森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)を描く内容としている。活動モデルでは、地域レベル、個別レベルでの経営への助言・アドバイス、計画作成、監理、実行など、さまざまな場面の具体的な事例を掲載している。

(2)対象者

山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ ※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

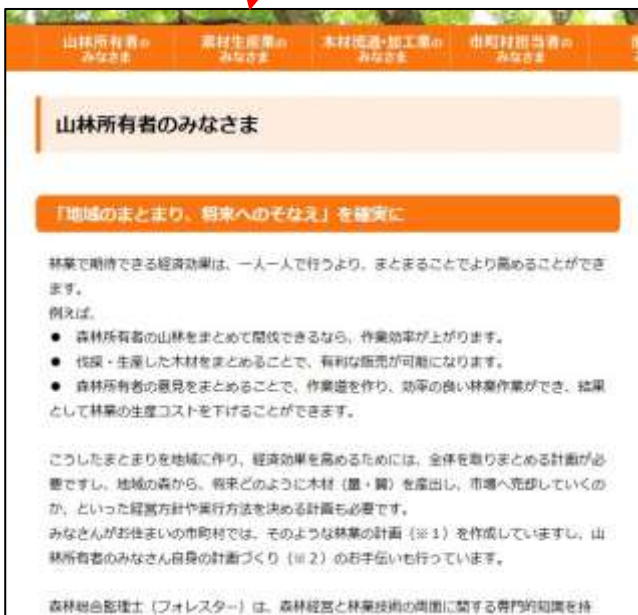
- ・山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等へ向けた森林総合監理士の活用方法
- ・森林総合監理士(フォレスター)とは? : 森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた政策の基本方向、森林総合監理士(フォレスター)の役割・活動内容、森林総合監理士(フォレスター)の制度的位置づけ、必要な施業の勧告等を掲載
- ・あなたの地域の森林総合監理士 : 各県ごとの森林総合監理士登録者一覧PDF(林野庁ホームページをリンク掲載)
- ・森林総合監理士の活動モデル(実践モデル) : 森林総合監理士の活動の立場、森林総合監理士

(フォレスター)の活動モデルを掲載

- ・用語辞典：森林総合監理士関係用語の説明
- ・森林・林業情報源：森林林業の技術・普及(出版)関係、林業就業関係、木材関係、森林ボランティア、森林・環境教育関係の事業体等を掲載
- ・関連情報リンク



▲トップページ



▲森林総合監理士の活動モデル(部分表示)



▲森林総合監理士活動事例集(部分表示)

4. 森林総合監理士ネットワークサイト

(1)目的

森林総合監理士の活動を公表・共有するなど、活動の「見える化」を促進することで、地域の優れた取り組みを波及し、森林総合監理士のモチベーション向上に資する。森林総合監理士活動を広げるヒント、アイデア集として活用できる、継続的なスキルアップを目指したサイトコンテンツを掲載している。

(2)対象者

森林総合監理士(サイトを閲覧するために、事前に登録フォームから申請が必要)

※登録者のみのログイン制

(3)登録者数

355名(1月21日時点)

(4)構成・イメージ

○コンテンツ ※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

- ・全国の活動からのヒント：森林総合監理士活動発表、進行形の取り組み、計画作成支援、経営支援、技術・集約化支援、需給調整・木材活用支援、特用林産物利活用支援、鳥獣害対策支援、安全衛生向上、研究開発支援(実証事業)、人材育成、インフォーマルな教育活動支援、意志決定支援等、活動事例を掲載
- ・森林管理局の取り組み：各森林管理局の森林総合監理士に関連した事業内容を掲載
- ・研修関係の蓄積情報：平成23～25年度准フォレスター研修・平成26～28年度森林総合監理士育成研修の講師一覧、研修フィールド一覧、講義資料等を掲載
- ・全国のネットワーク、連絡先：協議会・ネットワーク、都道府県の普及担当課、森林管理局担当課の問い合わせ先等を掲載
- ・その他のお役立ち情報：森林総合監理士に役立つ情報を掲載
- ・各ブロックのコンテンツ：7つのブロックごとに自由に情報を発信、コメント投稿できるように設定



▲トップページ



▲本年度更新箇所(部分表示)



▲本年度更新ページ(部分表示)



▲全国の活動からのヒント(部分表示)
 >計画作成支援



※外部データベースにリンク



▲森林管理局の取り組み>北海道森林管理局(部分表示)



※外部ホームページをリンク

5. 各サイトのアクセス数等

(1) 各サイトのアクセス数

個別のページごとの訪問者・訪問数はログの集計がなく、各サイトの訪問者・訪問数が算出できないため、期間内の合計アクセス数の集計とした。

サイト	令和3年4月～令和4年1月のアクセス数合計	(参考) 令和2年4月～令和3年1月のアクセス数合計
技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト	8,996	8,772
実践研修受講生向けサイト	472	762
森林総合監理士PRサイト	6,591	7,237
森林総合監理士ネットワークサイト	641	995

※ロボット、ワームなどによるアクセスは含まない。

(2) 本事業の全てのサイト合計の訪問者・訪問者数

年月	令和3年度		(参考) 令和2年度	
	訪問者	訪問数	訪問者	訪問数
4月	638	1,253	555	1,055
5月	612	1,095	578	1,021
6月	660	1,345	477	1,029
7月	618	1,197	480	1,052
8月	580	1,116	549	1,177
9月	642	1,070	601	1,484
10月	651	1,156	485	1,194
11月	550	953	535	1,150
12月	402	780	504	1,003
翌年1月	566	1,177	512	1,053
合計	5,919	11,142	5,276	11,218

※ロボット、ワームなどによるアクセスは含まない。

訪問者：期間内で重複の無いビジター数、訪問数：すべての訪問者による訪問数

Ⅱ．総括

森林総合監理士の技術水準の維持・向上、新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を目的とした、森林総合監理士活動の見える化をねらいとし、森林総合監理士を活用する者対象の『森林総合監理士PRサイト』と、森林総合監理士の登録者限定の『森林総合監理士ネットワークサイト』を設定し、今年度、情報更新した。このほか、本事業全体の概要を示す『技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト』、実践研修受講生へのフォローアップのための『実践研修受講生向けサイト』も更新した。一般向けの『技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト』と『森林総合監理士PRサイト』については、安定的にアクセス数もあり、本事業及び森林総合監理士をPRする窓口の役割は十分に果たしていると考えられる。また、対象者限定の『実践研修受講生向けサイト』と『森林総合監理士ネットワークサイト』については、サイト利用者（森林総合監理士ネットワークサイトは登録者）数を加味すれば、一定の利用があると言える。

『森林総合監理士PRサイト』は、森林総合監理士活動をPRし、地域での森林総合監理士の需要を喚起する目的として設定し、今年度、情報更新した。各道県の森林総合監理士の活動事例の紹介や対象者（山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業、市町村担当者、消費者、教育機関等）ごとに森林総合監理士の活用の呼びかけをまとめたサイトで、より広い層に森林総合監理士活動を普及・啓発できる意義は大きいため、基礎情報のほか、森林総合監理士の活動の最新情報等を更新してきた。今後も、継続的に森林総合監理士活動をPRしていく必要がある。

『森林総合監理士ネットワークサイト』は、情報共有の役割を主として、森林管理局での地域課題への取組や全国林業普及指導職員活動約240事例等の全国の先進的・優良事例、平成23～28年度に実施された森林総合監理士に関わる研修関係の蓄積情報（約290名の講師、フィールド）など、森林総合監理士活動に活用できる情報を掲載している。本サイトはログイン・パスワード制となっており、登録者数は1月21日時点で355名となっている。アクセス数の詳細から「進行形の取り組み」へのニーズが高かったこともあり、森林総合監理士活動の最新情報等を更新した。引き続き、森林総合監理士の活動情報等、登録者が業務に活用できる情報を効率的に収集し、提供していく必要がある。

參考資料

実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)

令和3年度

北海道ブロック

※所属は研修担当時

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション・研修の目的等の説明・アイスブレイク	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
【講義・机上案作成】 ・基本講義 (木材需給・流通に関する基礎知識) ・グループ演習①	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	信田孝広	北海道森林管理局資源活用第一課
	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
【現地視察・演習】 ・グループ演習② ・CLT生産工場の見学 【演習・発表】 ・グループ演習③ ・グループ演習④ ・発表 ・質疑応答	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
	和泉一広	北海道森林管理局技術普及課
【講評】 ・検討結果に対する講評と意見交換 ・まとめ	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	信田孝広	北海道森林管理局資源活用第一課
	井上 純	北海道森林管理局技術普及課

中部ブロック

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション(ガイダンス)	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【講義・説明・演習】 ・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	大野田 学	中部森林管理局森林整備課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	横井真吾	中部森林管理局名古屋事務所
	目崎拓海	中部森林管理局森林技術・支援センター
2日目の現地検討について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	大森裕司	中部森林管理局岐阜森林管理署
	原田昌弘	中部森林管理局岐阜森林管理署
	大野田 学	中部森林管理局森林整備課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	横井真吾	中部森林管理局名古屋事務所
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
目崎拓海	中部森林管理局森林技術・支援センター	
【現地実習】市場視察・採材仕分け・流通・販売	杉山永喜	下呂総合木材市売協同組合
【演習】発表準備 伐採・造林一貫作業による主伐及び低コスト造林について 図面、シート等作成	大野田 学	中部森林管理局森林整備課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	横井真吾	中部森林管理局名古屋事務所
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
目崎拓海	中部森林管理局森林技術・支援センター	
3日目の発表について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター

講義・演習名	講師	所属
【演習】発表(発表準備、発表、ディスカッション)・講師講評	吉岡哲也	林野庁研究指導課
	小口真由美	林野庁業務課
	大野田 学	中部森林管理局森林整備課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	横井真吾	中部森林管理局名古屋事務所
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
	目崎拓海	中部森林管理局森林技術・支援センター

近畿中国ブロック

講義・演習名	講師	所属
実践研修ガイダンス	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
【講義】今後の森林づくりの考え方について	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
【講義】多様な森林づくりの構想について	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
現地検討の進め方及び発表のとりまとめ方説明	岡林正人	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】現地検討前の打合せ(GW)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
現地検討の進め方説明	岡林正人	近畿中国森林管理局技術普及課
【現地検討】 ・天然力を活用した森林づくり (天然生広葉樹の活用事例の調査) ・一斉人工造林地における今後の森林施業 (地位等の森林の状況の調査)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表とりまとめ(GW) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について検討し、発表をとりまとめ	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
本日の進め方説明	岡林正人	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】発表・意見交換・講評	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター

講義・演習名	講師	所属
【演習】発表・意見交換・講評	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉岡哲也	林野庁研究指導課

四国ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修主旨、意図、留意点の説明	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
【講義】 大型製材工場の現状と課題 地域の特性に合った木材流通等	砂田和之	株式会社サイプレス・スナダヤ
【講義】 集材架線システムの資料作成の説明(コスト計算等) GIS操作方法	内藤晴敬	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	今村英治	四国森林管理局森林整備部技術普及課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 机上で1/5000図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	内藤晴敬	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	今村英治	四国森林管理局森林整備部技術普及課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】採材研修	大川容平	高知県森林組合連合会高幡共販所
	内藤晴敬	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 架線集材作業現場見学及び説明	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	内藤晴敬	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 簡易な架線集材設備の見学及び操作演習	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成	内藤晴敬	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	今村英治	四国森林管理局森林整備部技術普及課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【発表・講評】 各班発表、講評	内藤晴敬	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	今村英治	四国森林管理局森林整備部技術普及課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター

実践研修修了者名簿

令和3年度

北海道ブロック

※所属は修了日現在

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	北海道	坂本 雄	胆振総合振興局 森林室 豊浦事務所	001
都道府県職員	北海道	武田 敏文	上川総合振興局 南部森林室 富良野事務所	002
都道府県職員	北海道	細野 広樹	留萌振興局 森林室 普及課	003
都道府県職員	北海道	柳谷 成人	オホーツク総合振興局 東部森林室 普及課	004
都道府県職員	北海道	渡邊 正好	十勝総合振興局 森林室 大樹事務所	005
市町村職員	北海道	大木 康博	北見市役所 農林水産部 農林整備課	007
市町村職員	北海道	桐島 秀一	中標津町役場 経済部 農林課	008
市町村職員	北海道	中村 哲士	上士幌町役場 農林課	006
市町村職員	福岡県	山本 彩	北九州市 産業経済局 農林水産部 農林課	009
国有林職員	北海道	阿部 義則	北海道森林管理局 網走西部森林管理署 西紋別支署	011
国有林職員	北海道	森 孝二	北海道森林管理局 網走南部森林管理署 治山グループ	013
国有林職員	北海道	山岸 寛明	北海道森林管理局 網走中部森林管理署	012
国立研究開発法人職員	神奈川県	西島 麻衣	(研)森林研究・整備機構 森林整備センター 森林業務部 森林企画課	010

中部ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	富山県	武田 光樹	富山農林振興センター 森林整備課	025
都道府県職員	石川県	高野 繁	南加賀農林総合事務所 森林部 林業振興課	026
都道府県職員	静岡県	小林 祐実	経済産業部 東部農林事務所 森林経営課	027
都道府県職員	愛知県	五十君 友宏	豊田加茂農林水産事務所 森林整備課	028
都道府県職員	京都府	松原 潤	丹後広域振興局農林商工部 森づくり振興課	029
都道府県職員	鳥取県	阿部 竜三	中部総合事務所農林局 林業振興課	030
国有林職員	長野県	早川 幸治	中部森林管理局 木曾森林管理署	031
国有林職員	長野県	宮下 崇	中部森林管理局 森林整備課	032
国立研究開発法人職員	神奈川県	秋好 泰至	(研)森林研究・整備機構 森林整備センター 森林業務部	033
国立研究開発法人職員	愛知県	石原 祐軌	(研)森林研究・整備機構 森林整備センター 中部整備局 水源林業務課	034

近畿中国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	千葉県	石垣 裕一	農林水産部 北部林業事務所 森林振興課	014
都道府県職員	愛知県	三木 晃代	西三河農林水産事務所 林務課	015
都道府県職員	奈良県	吉村 正樹	水循環・森林・景観環境部 森と人の共生推進課	016
都道府県職員	熊本県	山方 香代	県南広域本部 球磨地域振興局 農林部 森林保全課	017
国有林職員	広島県	富谷 好生	近畿中国森林管理局 広島森林管理署 治山グループ	019
国有林職員	広島県	宮 達夫	近畿中国森林管理局 広島森林管理署 佐伯森林事務所	018
国立研究開発法人職員	広島県	林 真梨奈	(研)森林研究・整備機構 森林整備センター 広島水源林整備事務所	020
民間	京都府	藤井 拓郎	公益財団法人京都市森林文化協会	021
民間	兵庫県	藤田 夏子	兵庫県森林組合連合会	022
民間	兵庫県	蓬田 和生	住友林業株式会社 山林部 大阪事業所	023
民間	鳥取県	藤原 孝志	日南町森林組合 事業部 森林管理課	024

四国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者 番号
都道府県職員	愛知県	高取 慧	農業水産局 新城設楽農林水産事務所 新城林務課	035
都道府県職員	奈良県	青地 泰嗣	食と農の振興部 南部農林振興事務所 森林共生推進第一課	036
市町村職員	奈良県	金森 悠	十津川村 産業課	037
都道府県職員	香川県	福田 裕之	環境森林部 みどり整備課	038
都道府県職員	愛媛県	吉良 優那	東予地方局 農林水産振興部 森林林業課	039
都道府県職員	高知県	森田 早紀	林業振興・環境部 嶺北林業振興事務所	040
都道府県職員	高知県	山本 象平	林業振興・環境部 嶺北林業振興事務所	041
国有林職員	愛媛県	中村 正史	四国森林管理局 愛媛森林管理署 業務グループ	042
国有林職員	高知県	内田 雅巳	四国森林管理局 嶺北森林管理署	044
国有林職員	高知県	崎川 龍也	四国森林管理局 森林整備部 資源活用課	046
国有林職員	高知県	西田 哲也	四国森林管理局 四万十森林管理署 業務グループ	043
国有林職員	高知県	馬門 辰美	四国森林管理局 高知中部森林管理署	045

実践研修ふりかえりシートの様式例

実践研修

●●ブロック 1日目 ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____

氏名: _____

受講生No.: _____

<p>講義や演習で学んだことのポイントやキーワード 印象に残った講師や他の受講者の言葉を記録・整理</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと、取り組みたいことを記録・整理</p>	
<p>自分の知見を高めるために、 もっと詳しく知りたい・学びたいこと、 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

実践研修

●●ブロック 最終日ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No.: _____

3日間の実践研修を終えて、新たに見えてきた自分自身の課題、
新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等を整理・記録しましょう

〇〇ブロック 技術力維持・向上対策研修(実践研修)評価アンケート調査票

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。

ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いいたします。

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No: _____

I 森林総合監理士資格の有無

該当欄の数字に〇を付けて下さい。

(1) 森林総合監理士資格の有無

森林総合監理士	資格なし
1	2

II 本研修に対する理解度、活用度

該当欄の数字に〇を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) 研修内容についてどの程度理解できましたか？

【コメント】

できなかった	できた
1	5
2	4
3	3

(2) 今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

【コメント】

できない	できる
1	5
2	4
3	3

III 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

該当欄の数字に〇を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

【コメント】

低い	満足度	高い
1	3	5
2	4	4

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について

【コメント】

低い	満足度	高い
1	3	5
2	4	4

(3) カリキュラムの時間について

【コメント】

低い	満足度	高い
1	3	5
2	4	4

(4) 研修の進行・運営の流れについて

【コメント】

良くなかった	良かった
1	5
2	4
3	3

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

ご協力ありがとうございました。

実践研修タイムスケジュールの事例

令和3年度 実践研修 講義等のタイムスケジュール

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間				
11月17日 （水）	11:00	1:00	11:00	0:45	スタッフミーティング		その他	
	13:00	0:30	13:00	0:30	開講式	<ul style="list-style-type: none"> ・開講あいさつ (森林管理局 整備部長) (林野庁 研究指導課) ・外部講師 ・スタッフ等の紹介 ・研修の目標・進め方・確認 ・スケジュール紹介 ・事務連絡(研修運営事務局) ・班内での自己紹介など (自己紹介の時間は、開講式の残り時間とする) ・アンケート調査票を配布(開講前に事務局配布) 	その他	森林管理局
	13:30	1:30	13:30	1:27	<ul style="list-style-type: none"> ・大型製材工場の現状と課題 ・地域の特性に合った木材流通について 	森林管理局 講義60分、質疑応答30分	講義	外部講師
	15:00	0:10	14:57	0:13	休憩		その他	
	15:10	0:40	15:10	0:50	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな形の説明 ・架線系作業システムの資料作成の説明 ・GIS操作方法の資料作成の説明 	各班の担当講師 1班:森林管理局 2班:森林管理局 3班:森林管理局 <ul style="list-style-type: none"> ・架線系作業システムの資料作成の説明(コスト計算)30分 ・GIS操作方法説明10分 	講義	森林管理局
	15:50	0:10	-	-	休憩		その他	

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間				
	16:00	0:40	16:00	0:50	搬出系統図(集材線・路網)作成	各班の担当講師 1班:森林管理局 2班:森林管理局 3班:森林管理局 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入。	実習	森林管理局
	16:40	0:20	16:50	0:16	ふりかえり	1日目のふりかえりシート配布(記入のみ) 回収 ※明日の現地実習の説明(簡潔にアナウンス)	その他	
	17:00		17:06		1日目終了			
	17:00		17:08	0:19	スタッフミーティング	ふりかえりシート回覧		

2日目	8:15	2:00	8:07	1:57	現地へ移動(栃ノ木谷山 3227)	準備物は、前日にD5に積み込む ・七子峠でトイレ休憩(10分以内) (10:15までに着予定) ・研修生はジャンボタクシーで移動 ・スタッフ2名がジャンボタクシーに同乗 1号車(森林管理局) 2号車(森林管理局)		
	10:15	0:10	10:04	0:11	実習準備	ジャンボタクシーは、現場手前で下車	その他	
11月18日(木)	10:25	1:00	10:15	1:35	採材研修	全体:外部講師 各班の担当講師 1班:森林管理局 2班:森林管理局 3班:森林管理局 ・自班の採材木と、外の班の採材木を採材(合計3本)し、その結果を発表 ・外部講師講評 ・準備物(電卓、輪尺、メジャー、単価表、野帳、野帳板)(丸太材積表・立木材積表)パソコン、拡声器、パネル	その他	森林管理局 外部講師

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間				
	11:25	0:40	11:50	0:35	架線集材作業現場見学及び説明	事業概要外 ・事業概要10分 ・荷下ろしから造材までの一連の流れ見学20分 ・ドローン飛行映像確認10分	説明 演習	外部講師
	12:05	1:00	12:25	0:40	昼食	現地昼食 ※各班、搬出系統図について確認したい箇所がある場合ドローン飛行させる	その他	
	13:05	2:00	13:05	1:50	四国森林管理局へ移動	七子峠でトイレ休憩		
	15:05	0:10	14:55	0:10	休憩		その他	
	15:15	0:45	15:05	0:55	簡易な架線集材設備の見学及び操作演習	・架線設備説明15分 ・電動集材機操作(3分×7名(林野職員除く))21分	実習	森林管理局
	16:00	0:45	16:00	0:45	集材作業システムの資料作成	資料作成について、再度、研修担当から説明。		森林管理局
	16:45	0:20	16:45	0:15	ふりかえり	2日目のふりかえりシート配布(記入のみ) 回収	その他	
	17:05		17:00		2日目終了			
			17:02	0:24	スタッフミーティング	ふりかえりシート回覧		
			17:26		終了			

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間				
3日目	8:15	1:45	8:15	1:45	発表資料作成	<ul style="list-style-type: none"> -8:15～9:30 図面作成及びプレゼン作成 -9:30～10:00 プレゼン発表練習 ※資料が完成した班から発表資料印刷(会場内の事務局プリンターで一部印刷後、技センのコピー機で部数印刷)	グループワーク	
	10:00	0:10	-	-	休憩		その他	
	10:10	1:20	10:00	1:20	発表	発表順番は、1班→2班→3班 ↑ ↑ ↑ 質問は、2班 3班 1班 ①12名(3班) ②各班20分(10分発表、各班質問検討2分、8分質疑応答) ③講評:10分程度(資源活用課長)	説明	
11月19日 (金)	11:30	0:30	11:20	0:30	ふりかえり(記入と共有) アンケート記入 閉講式 解散	ふりかえりシート配布 回収(ふりかえりシート班内共有は一人約1分づつ) 閉講式の挨拶は、技セン所長 閉講式後に集合写真撮影	その他	
	12:00	0:30	11:50	0:24	スタッフの3日間の反省会 全日程終了	ふりかえりシート、アンケート回覧		
			12:14					

研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について
(研修生への要請事項)

林業成長産業化構想技術者育成研修及び技術力維持・向上対策研修の研修実施に当たって、下記のとおり新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染防止対策を実施しますので、下記の要請事項等の遵守をお願いします。

記

1 研修受講前に関する事項

(1) 研修受講前の体調管理について

万全の体調で研修に臨むため、日頃から体調管理に努めてください。また、受講前の2週間は毎日（できれば朝夕2回）検温の上、各自の体調等について、別紙「体温・体調等記録用紙（表）」に記録し、受講の可否の判断材料としてください。

なお、当該記録用紙は、研修14日前から研修開始日を（表）面に、研修開始日から研修終了日までを（裏）面に記載する様式になっていますので、両面印刷の上、研修開始日までの状況を（表）面に記載し、研修に持参してください。

(2) 研修受講の可否の判断について

ア 受講の取りやめ

以下のいずれかに該当する方は、受講を見合わせてください。

- ① 研修前2週間以内に発熱等の症状が見られた者（※新型コロナが疑われる場合以外であっても、体調不良者は参加を見合わせてください）
- ② 国・地域を問わず、海外からの帰国後2週間以内の者
- ③ その他、同居親族等の家庭内又は職場の同僚などの感染が確認される等、感染のおそれがある者

イ 受講を要検討

以下のいずれかに該当する方は、受講の可否を慎重に検討願います。

- ① 基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患ほか）がある者、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者など、重症化しやすいとされている者
- ② 研修前2週間以内に大規模イベント等（ライブハウス、コンサート等）に参加した者

ウ その他

感染が拡大している地域等からの研修生は、当該都道府県等の方針（県外への移動自粛要請等）に基づき、研修受講について判断願います。

(3) 来場までの間の感染防止等について

ア 研修会場への来場の際、公共交通機関の利用にあたっては、感染防止にご留意ください。なお、利用した移動ルート（自宅最寄駅等⇔研修会場最寄駅等）の便名・座席番号等を控えておいてください。

イ 来場時に検温を実施し、体調の聞き取りを行います。その際、発熱症状等が

ある場合は、研修参加を取りやめ、そのまま帰宅等していただきます。

(4) 厚生労働省配布の接触確認アプリの活用（スマートフォン所有者のみ）

各自のスマートフォンに、厚生労働省が配布する新型コロナの陽性者と接触した可能性について通知を受け取ることのできるアプリをインストールし、研修受講の可否の判断材料としてください（※詳しくは厚生労働省HPを参照）。

2 研修中に関する事項

(1) 持参品について

各研修生は、マスク、体温計を必ず持参願います（マスクは研修期間中に必要な枚数）。

(2) 研修中の感染防止対策について

ア 毎朝、研修スタッフが体調不良者の有無を確認しますので、研修生は各自で毎朝夕検温し、別紙「体温・体調等記録用紙（裏）」に体調その他参考事項等（メモ欄）を記録いただきます（記録用紙は研修最終日に提出）。

イ 過年度研修初日に実施していた意見交換会は、開催を見合わせます。

ウ 研修時間外においても不要な外出は避け、常識的判断に基づく、節度ある行動をとるよう心掛けてください。

(3) 講義・実習中の感染防止対策について

ア 研修中は、可能な限り、人を密集させない環境の整備に努め、屋内での講義では換気を励行します。

イ 研修会場内及び演習地までの移動車中では、マスクを着用していただきます。また、演習中も状況に応じてマスク等の着用をお願いします。

(4) 体調不良者の取扱いについて

ア 新型コロナの疑い如何に関わらず、体調不良者は即時研修を中止し、帰宅等していただきます。

イ 感染のおそれがない体調不良者の場合、必要に応じて病院で診察後、医師の診断結果に基づき帰宅・入院等いただきます。

ウ 感染が疑われる場合（濃厚接触者であることが判明した場合等を含む）、保健所等の指示に基づき対処します。また、帰宅方法等は、保健所や研修生の所属機関とも協議の上、決定します。

3 研修受講後に関する事項

研修終了（帰任）後2週間以内に体調不良となる等、当該研修受講時には既に新型コロナに感染していたおそれがある場合は、至急、研修事務局に連絡願います。

4 その他

感染拡大状況等によっては、研修開始前に、急遽、研修を中止する場合があります。また、研修生に新型コロナが疑われた場合等は、研修実施中であっても、保健所等の指示に従い、即時研修を中止し、全研修生を帰宅等させる場合があります。

体温・体調等記録用紙（表）
（研修受講14日前からの状況）

*新型コロナウイルスの最大潜伏期間はおおむね14日間といわれています。
 *本記録用紙には、研修14日前から研修開始日までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。
 *この期間に体調不良を感じた場合には、無理せず、職場と相談の上、他の研修生のためにも受講について再検討してください。
 *個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所 属		研 修 名	技術力維持・向上対策研修
ふりがな		研修区分	四国ブロック（高知県高知市）
氏 名		研修期間	令和3年11月17日（水）～11月19日（金）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、 鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、 嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 「三密」状態になるなど感染リスクが高いと思われる外出先(場所)・相手方など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月3日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月4日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月5日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月6日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月7日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月8日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月9日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月10日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月11日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月12日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月13日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月14日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月15日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月16日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
11月17日 (当日)	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		

【注】「三密」状態：①換気の悪い密閉空間、②大勢がいる密集場所、③間近で会話する密接場面が重なる状態

体温・体調等記録用紙（裏） （研修期間の状況）

*本記録用紙には、研修開始日から研修終了までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。

*研修期間に体調不良を感じた場合には、速やかに研修スタッフに申し出てください。

*本記録用紙は、最終日に提出してください（本記録用紙は研修終了後2週間保存後、廃棄します）。

*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所属		研修名	技術力維持・向上対策研修
ふりがな		研修区分	四国ブロック（高知県高知市）
氏名		研修期間	令和3年11月17日（水）～11月19日（金）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常 など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 ・宿泊施設名称 ・研修中に利用した食堂等の名称など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
11月17日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
11月18日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
11月19日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		

【メモ1】
班のメンバーの氏名

①	②	③
④	⑤	⑥

【メモ2】
班のメンバー以外で研修中（時間外を含む）に間近で会話する場面があった方（スタッフを含む）の氏名

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

【注】濃厚接触: 1mの距離（目安）で、マスク等を着用せずに15分以上の接触があった者（喫煙所・会食など）

技術力維持・向上対策研修（実践研修）

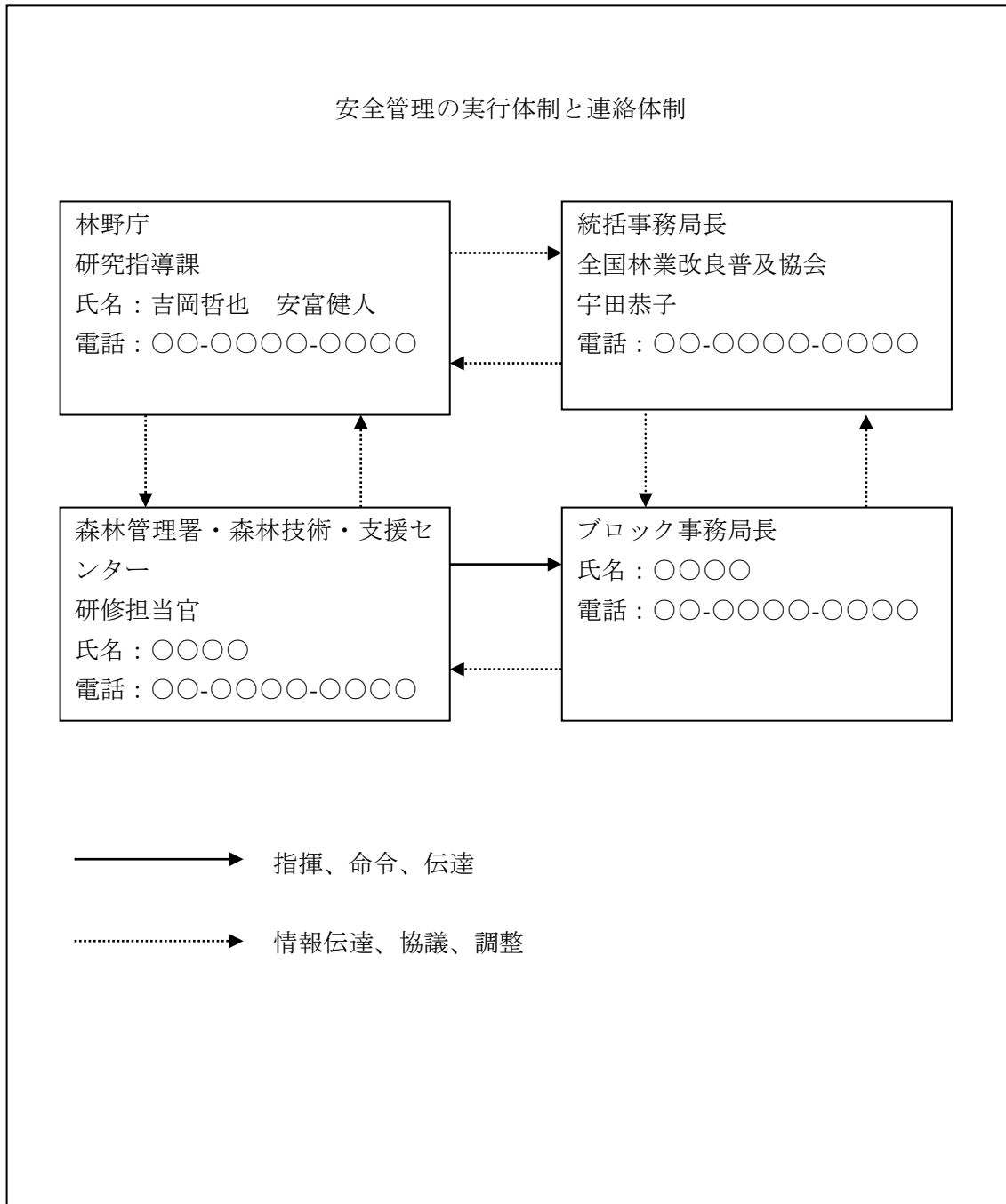
安全管理計画書

安全管理マニュアル

〇〇ブロック

1 安全管理の実行体制と連絡体制

現地においては森林管理局研修担当官の指示のもと、指揮・確認・情報伝達の体制は下記のとおりとする。



2 安全管理の事前確認

(1) 受講者情報の事前確認

下記①、②、③については、統括事務局が事前に照会並びに案内を行うので、①、②については一覧(名簿)にて、③については研修開始時に確認する。

① 受講者及び研修派遣元の情報

【受講者】 氏名、住所、電話番号、救急時連絡先電話番号、年齢、血液型、蜂アレルギーの有無及び蜂アレルギーの程度、研修参加にあたり健康上での留意事項等

【派遣元】 名称、住所、電話番号、緊急時連絡先(担当者氏名、電話番号)

② 受講者の派遣元における保険の加入情報

③ 服装、保安帽の準備

受講者へあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、及び山歩きに適した靴(長靴等)、保安帽等安全具の用意を伝えること。蜂の活動期については、現地実習等で着用する衣服は、黒っぽいものを避けること。

(2) 研修場所、研修機械器具、救急薬品等の整備

① 研修は安全に実施できる場所を選定すること。

② 研修場所及び周辺を研修内容に即して事前に確認し、危険箇所(急傾斜、浮き石、蜂の巣等)を把握し、危険箇所にはテープ等で表示すると共に、現地実習実施前に必ず注意を促し、近づかないよう回避する。

③ 事故時に受講者が退避できる安全場所を確認しておくこと。

④ 救急車との合流場所を確認しておくこと。(救急車は林道等の悪路走行が困難なことがあるので、合流地点は人家近くが望ましい。)

⑤ 現地実習の現場も含め携帯電話の使用の可否を確認し、研修中の連絡体制が確保されていることを確認すること。(図面を作成し、会社によって使用可能なものや不可能なものがあるので複数の会社で試験してみる。)

なお、(特に現地実習現場において)受信範囲が極端に狭い、圏外のエリアがほとんど、というような場合は、統括事務局へ相談する。

⑥ 研修会場まで車で移動する場合は、事前に安全な経路を確認すること。

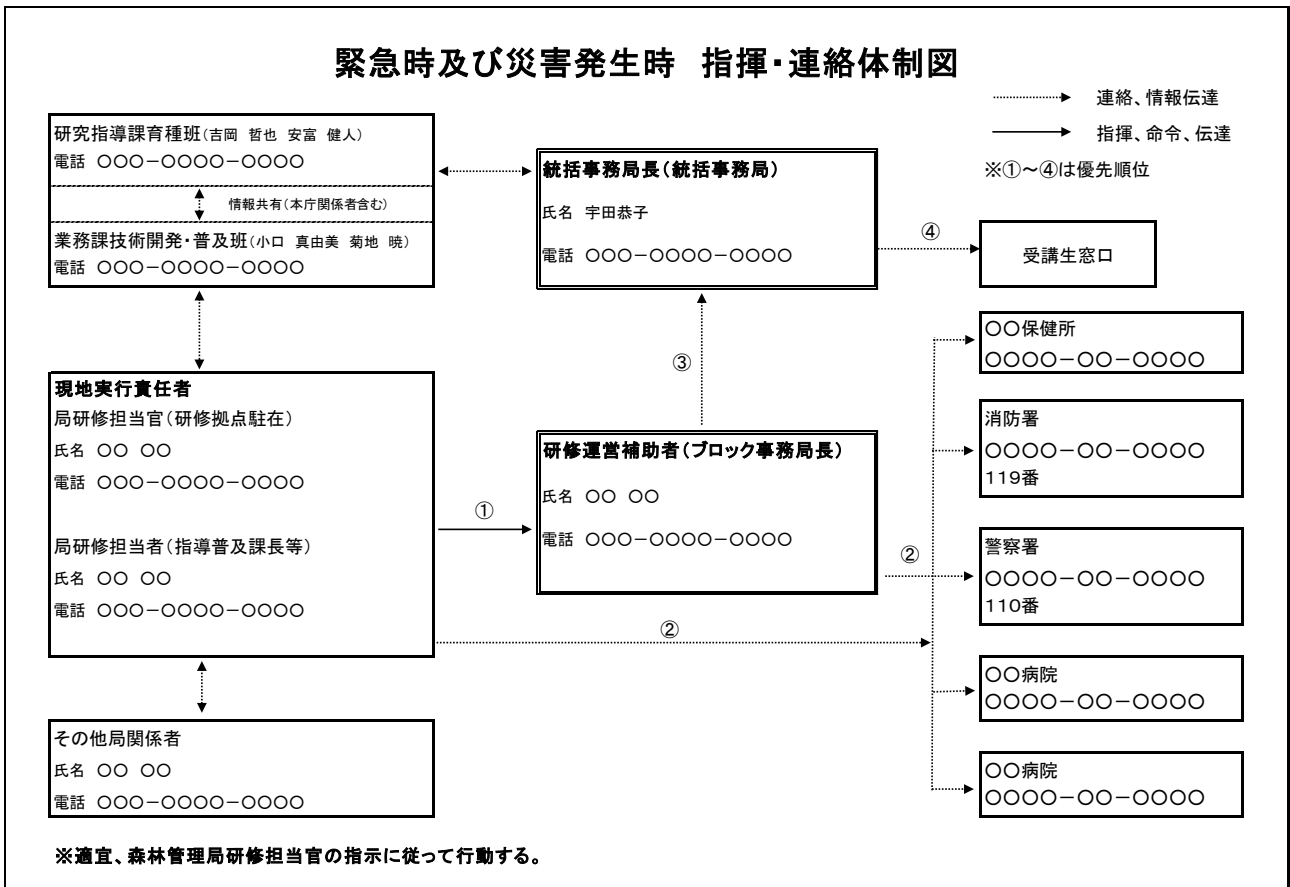
⑦ けが人、急病人等の搬送手段、搬送医療機関を確認しておくこと。

⑧ 研修で使用する器具等の点検を行い、整備不良等に伴う危険因子の排除に努めること。

⑨ 携帯用救急薬品等の点検を行い、不足・不良や期限切れの無いようにすること。

(3) 緊急時及び災害発生時 指揮・連絡体制の整備

緊急時の指揮・連絡体制は、下図のとおりとする。

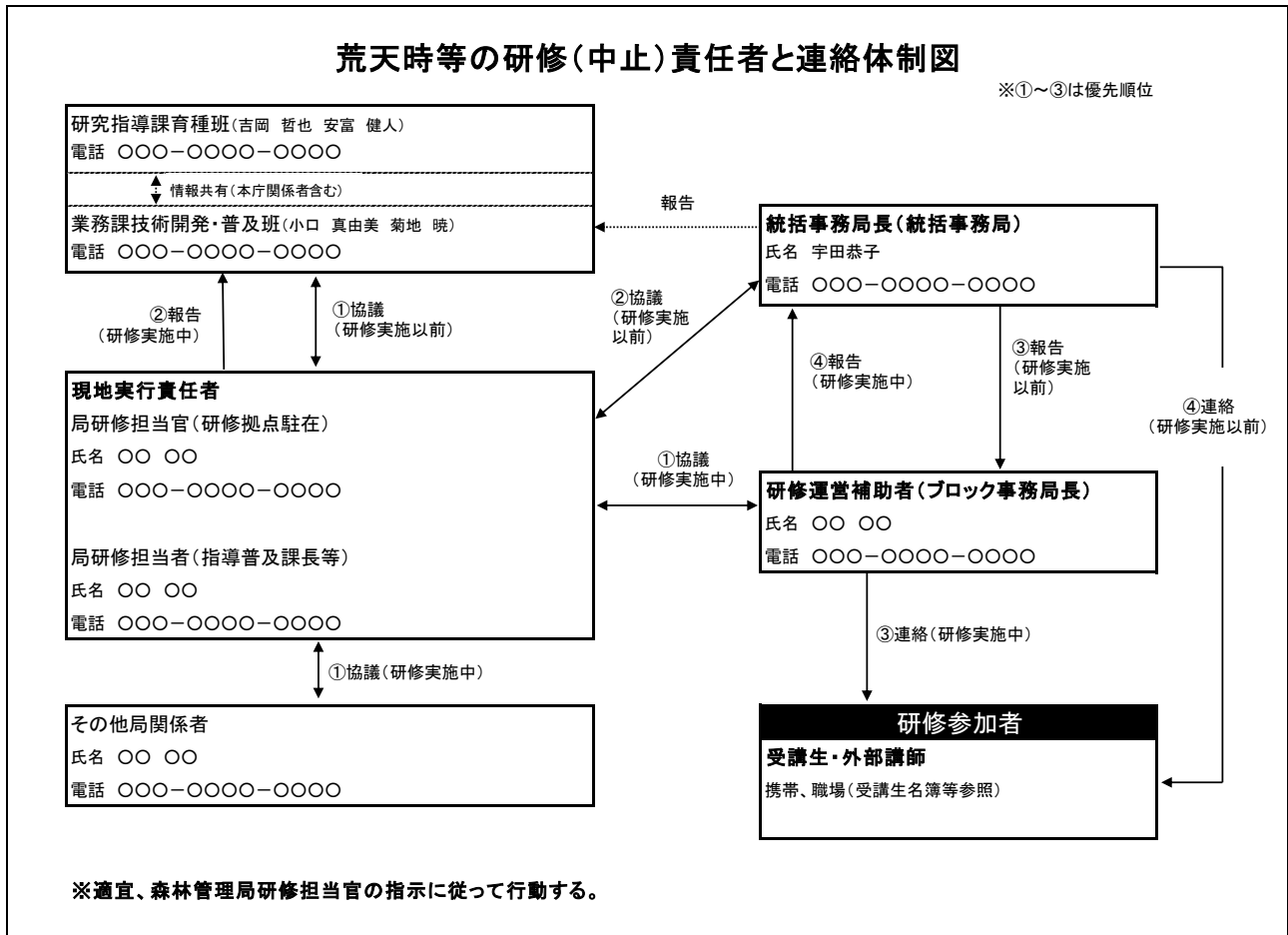


(4) 荒天時の対応(研修開催前)

荒天時の研修の実施について、気象情報等の収集整理を行う者、研修の変更、中止の決定方法、決定の日時、研修参加者への周知方法については下記のとおりとする。

荒天時の研修実行(中止)決定責任者は実行責任者(局研修担当官)とするが、研修運営補助者と協議のうえ決定する。

- ①気象情報の収集整理担当者(ブロック事務局員〇〇〇〇)
- ②決定の日時(研修開催前：令和3年〇月〇日〇時、研修中：令和3年〇月〇日〇時)
- ③受講者・講師・その他研修参加者への周知方法



3 研修実行時の安全管理

(1) 研修の実行

1) スタッフミーティング

研修開始前には、研修スタッフの他、講師、局研修担当官等を交えて、研修の内容、各スタッフの役割、研修の手順、実習内容、人員配置、受講者の出欠状況等の確認を行う。また、研修内容、天候、危険要因等の認識の一致を図る。

さらに、現地実習日の前日に開催される反省会において安全管理について再確認を行う。

2) 研修参加者の安全確保

①研修会場へ車を使用して移動する場合は、交通事故に注意するよう注意喚起を促すこと。現地実習会場へ移動する場合は、当日の工事車両等の有無を確認する。

②研修参加者に対し、安全に関する基本的事項を説明し、身体保護のための被服、防護具は正しく装着するよう指導・確認する。

・保護帽は正しく装着し、あご紐は正しく締めること。

・作業服は袖、裾締まりの良いものを着用すること。

③研修参加者に対し、ヒヤリ・ハット事例があった場合の報告を徹底させること。

④現地実習などでは、次の安全活動を徹底する。

○KYT (危険予知訓練)

危険個所に対する感受性を高めるとともに、問題解決能力の向上を図る。

○リスクアセスメント

現場における災害原因を分析し、事前排除に努める。

○指差呼称による確認

作業行動の要所で対象物を確認し、発声により意識を覚醒させ、うっかり災害を防止する。

○相互注意運動

お互いに不安全行動を指摘し合い、その改善を図る。

○4S運動

整理・整頓・清潔・清掃を行う。研修後の後始末を確実に行う。

○生産・工事現場の確認

機械が動いている生産・工事現場などをあらかじめ確認しておき、近づいたりしないこと。

○研修中の怪我に際しての対応

研修中の怪我により医療機関での処置が発生した場合、その怪我の状況、病院・診療所名、その後の経過を所属機関担当者に報告し対応を引き継ぐ。

3) 救急薬品等の携帯

現地実習の場合は、携帯用救急薬品等を必ず携帯すること。

4) 荒天時の対応(研修中)

研修中の天候急変等異常時には、次によることとする。

①中断、中止の判断は、現地実行責任者が決定し、ブロック事務局長が結果を統括事務局に報告する。

②一時的に避難する箇所を確保するとともに、下山については、集中豪雨、強風等による道路

事情を十分検討し、現地実行責任者等の慎重な判断指揮のもとに、余裕をもった行動をとること。

③退避場所(休憩所を含む)は異常出水、転落石、崩土等の危険を十分点検して選定すること。

④林道等道路上の待機、退避、または駐停車については、谷筋、岩石地、路肩法面の高い所、橋梁上等危険な箇所を避けること。

(2)研修終了後の確認

1)スタッフミーティング

研修終了後は、必要に応じ、局研修担当官等の参加を得て、研修に係る安全管理についての内容等について、事前打ち合わせどおり実施できたか確認を行うとともに、研修全体を振り返り、今後に向け安全で効果的な研修方法についての改善策をまとめる。

さらに、研修中に発生した「ヒヤリ・ハット」事例を報告し合い、発生原因、再発防止対策をまとめる。

【ヒヤリ・ハット事例報告項目】

①日時	
②場所	
③内容	
④状況	
⑤発生原因	
⑥再発防止策	

2)ヒヤリ・ハット事例報告

ヒヤリ・ハット事例と再発防止策を局研修担当官と統括事務局に報告する。

■付表1 チェックリスト

1. 事前確認

- 連絡体制図を(通常時、緊急時)を作成しているか
- 参加者は労災保険又は傷害保険に加入しているか
- 受講者にあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、保安帽等安全具の用意を伝えたか
- 参加者に蜂アレルギー者がいないかを確認したか
- 現地実習箇所について、事前に蜂等の危険因子を回避したか
- 現地の事前確認を行ったか
 - 安全面で研修開催可能な場所か
 - 安全に研修できる地山勾配か
 - 浮き石が無い
 - 蜂の巣(有・無)有の対策：研修箇所から外し、周知を徹底する
 - 危険箇所がないか(崖、水量の多い谷等)
 - 怪我人の搬送方法を確認したか
 - 安全に研修出来るスペースは確保できるか
 - 携帯電話の使用の可否を確認し連絡体制確保を確認出来たか
- 最寄りの病院の位置図、経路を確認したか
- 研修で使用する器具等の点検を行ったか
- 現地の天候(予報)を確認したか
- 携帯電話が繋がらない箇所の場合の対応策はとられているか

2. 持ち物

- マニュアル(緊急連絡網)
- 救急箱
 - バンドエイド
 - 薬(消毒薬、湿布等)
 - 包帯
 - 三角巾(グループ分けした場合は各班毎)
 - タオル
 - ポイズンリムーバー
 - 蜂スプレー(季節による)
 - ガーゼ
 - 抗ヒスタミン軟膏(蜂刺され用)(使用期限を確認すること)

3. 研修中

- 受講者が危険な行為をしていないか
- 怪我または気分の悪くなった受講者はいないか
- 上下作業になっていないか
- 受講者が作業危険区域内に立ち入っていないか(伐採区域等)

付表2 災害発生現場からの連絡事項(チーフ(現地責任者)連絡用)

災害発生現場からの連絡事項

- 1 連絡者の氏名 私は〇〇です。
- 2 災害の概要
 - (いつ) 〇〇時△△分に
 - (どこで) 〇〇研修の現場で 〇〇市〇〇町〇〇 付近には〇〇があります
 - (だれが) 〇〇(氏名)が
 - (何を) 〇〇作業中に
 - (どうして) 〇〇したところ
 - (何により)
 - (どうなった) 〇〇(部位)を〇〇した。
- 3 傷病者の容態
 - (意識) ある・ない
 - (呼吸) している・弱い・ない
 - (出血) ある(多い・少ない/部位:)・ない
 - (骨折) 骨折はある(部位:)・ない・不明
 - (手当等) 止血、薬を服用・塗る 等
 - (その他)
- 4 救急車の要否
 - ・救急車は必要・不要
 - ・救急車との合流は〇〇地点(合流点までの距離、歩道の距離)
 - ・輸血は必要・不要
 - ・血液型はR h(プラス・マイナス)(A・B・O・AB)型
 - ・搬送等の手段 〇〇で下山、合流地点まで〇〇分くらい
- 5 搬送先の医療機関

※連絡は、救急隊への引き継ぎ後、または、医療機関への搬送後に速やかに行うこと。

事故発生確認事項

連絡者の氏名確認		
災害の概要	いつ	月 日 時 分
	どこで	研修の現場・ (市・郡) (町・村) で
	だれが	(年齢)
	どんな	作業中 でケガをしました。
発生原因		
傷病者の様態		ケガの状況は (意識) ある ・ ない (呼吸) ある ・ ない (出血) ある ・ ない (骨折) ある ・ ない ・ 不明
救急車の要否		必要 ・ 不要
(※)必要に応じて		・救急車の合流地点 ・傷病者の住所 ・傷病者の電話番号 ・輸血 必要・不要 ・血液型 A・B・O・AB型 (Rh プラス・マイナス) ・搬送医療機関
現場概況		天候 : 晴れ、曇り、雨、雪 樹種 : スギ、ヒノキ、その他針()、広葉樹 樹高 : m 太さ : cm 地山 : 勾配、土質(砂質、粘性、礫混じり、岩、その他()) その他 :

緊急時の現場行動マニュアル



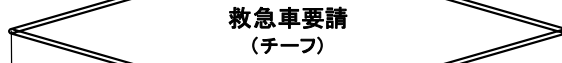
通報 研修中断指示・現場安全確保
 (発見者) (チーフ、サブ)
 ①発見者はチーフ(〇〇〇〇)、サブ(〇〇〇〇)に通報、直ちに研修を中断
 ②チーフ、サブは現場確認・安全確保(落石、蜂等)
 ③受講生は予め決めた安全場所で待機
 ④チーフは救急車要請、サブは森林管理局・統括事務局へ第1報

現場携帯用

チーフ: 局研修担当官
 (担当者 氏名、電話番号)

サブ: 研修運営補助者
 (ブロック事務局)
 (担当者 氏名、電話番号)

情報の流れ →



必要なし

必要

- ・頭をぶつけた
- ・マムシに噛まれた
- ・ハチに刺された
- ・出血が激しくとまらない
- ・骨が折れているようだ
- ・呼吸・脈拍が感じられない

助務者確保 (チーフ)
 受講生に助務を依頼

消防通報・研修中止・助務者確保(チーフ)
 ①消防(119番)へ通報、サブへ救護指示
 ②研修を中止し、受講生に助務を依頼
 ③チーフは森林管理局・統括事務局へ第2報、サブは被災者救護等

第1報

サブ

第2報

チーフ

被災者救護・応急対応(サブ)
 ①助務者と協力して被災者を安全場所へ誘導
 ②助務者と協力して被災者の応急対応(統括事務局用意の緊急対応マニュアル等を参考にできる範囲で手当て)
 ③チーフは被災者の負傷程度を林野庁・管理局に、サブは統括事務局へ報告(第3報)

第3報

チーフ

現場安全確認後
 研修再開・中止
 (チーフ)

被災者搬出(サブ)
 ①サブは被災者を人家近くの救急車合流地点まで搬送
 ②助務者は救急車誘導指示

チーフ

救急車で搬送(サブ)
 ①サブが救急車に同乗、助務者は救急車に随行
 ②救急車が到着したらチーフは森林管理局・統括事務局へ報告(第4報)、サブは救急車で搬送(搬送後の状況についてはチーフに報告)

第4報

チーフ

公用車等で搬送
 (研修関係者)

搬送後の現場対応(チーフ)
 チーフは現場に残り、
 ①救急車が出発したら報告(第5報)
 ②受講生に研修会場の後片付け、帰宅指示
 ③警察の現場検証に協力・立会
 または、現場記録(写真・見取り図)作成

第5報

チーフ

医療施設での対応(サブ)
 ①サブは医療施設に到着後チーフへ報告、所属関係機関にチーフは報告(第6報)
 ②サブは処置後チーフへ状況報告

第6報

チーフ

管理局・統括事務局

林野庁

本事業で使用している研修関係用語の説明

実践研修では、より研修効果を上げるため様々な工夫をしながら実施している。それらの取り組みに関係する用語を中心として説明する。

○アイスブレイク

「アイスブレイク」とは、参加者の心や、初対面の参加者同士、スタッフ間との間に張った緊張の氷(アイス)を壊す(ブレイキング)時間である。研修の初日のオリエンテーション等で取り入れている。一般的には自己紹介の時間などを兼ねて簡単なゲームを行う。班内の受講生同士の自己紹介や課題等を決められた時間で話したり、誕生日でグループになり文等を交えた自己紹介などその場の雰囲気に合わせて多様なアイスブレイクを行っている。

○アイランド形式

演習(グループワーク)が多いことから、班(4～5人)ごとに机を配置する「アイランド形式」を取り入れている(ブロックによっては、開講式からこの形式で行っている)。アイランド形式は、講師やホワイトボード(スクリーン)が見えにくい場所もあるが、班の受講生同士のコミュニケーションを促し、気軽に意見交換し、意識を共有しやすい環境づくりに役立つ。

その他の配置としては、教室型、シアター型、半円型、円型がある。

○OKP法

演習においてプレゼンテーションなどを行う際に使用している。

ポイントが書かれたA4版の紙(紙芝居)を黒板やホワイトボードに貼り付けながら話を進める手法をKP(紙芝居プレゼンテーション)法といい、発表者がポイントを分かりやすく整理、見える化し、伝える手法である。

○ワークショップ

「ワークショップ」は一方通行的な知識や技術の伝達でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルとして定義されている。ワークショップの実施に当たっては、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役が、参加者が自発的に作業する環境を整える重要な役割を担っている。このことにより、参加者全員が体験・運営することによりグループの合意形成が図られる。

○ペチャクチャタイム(PKT)

講義の合間や演習での発表後に、講義や発表を受けての感想や疑問点、助言等を班ごとに話し合う時間を適宜設けている。この時間を「ペチャクチャタイム」と呼んでいる。この時間を設けることにより、他の受講生の考えを聞くことで、自分の立ち位置や別の視点からの気づきを促し、より理解を深め、質問や意見を出しやすい雰囲気を作ることができる。

○ふりかえり

学んだことを自分のこととして考えてもらうため、カリキュラムの中に「ふりかえり」の時間を設けている。

自身でふりかえりの時間で考えたことや新たな気づき、帰ってからすぐに活用できそうな点、自分なりにもう一度整理、確認しなければならない点等を具体的に書き、言葉化することである。また、グループで読み合い、共有する。そして、なによりも重要なことは、研修の成果として、言葉にしたことを受講生に持ち帰ってもらうことを目的としている。

なお、ふりかえりの際に使用する用紙を「ふりかえりシート」という。

○スタッフミーティング

研修を円滑に実施していくため、カリキュラムの進行や参加者についての情報をすべてのスタッフで共有するため、研修実施前、研修期間中、研修終了後に全スタッフ、外部講師も参加してミーティングを行っている。

特に研修終了後のミーティングでは、最後に書いたふりかえりシートやアンケートを全参加者が読み、そこから気がついたことや自分が思ったことを発表していく（このミーティングでは、建設的な意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けることが大事である）。

なお、この場でも出された改善点やアイデアなどは、運営補助者が作成する実施報告書等で共有するようにしている。

参考資料2-3

事務担当、事務局名簿(統括事務局、ブロック事務局)

*運営スタッフは主な者である。

統括事務局名簿

名称	一般社団法人 全国林業改良普及協会				
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階				
電話番号	03-3584-6625				
運営スタッフ	事務局長	宇田恭子			
	スタッフ	中山 聡	本永剛士	石井麻美	三石 麗
		森本 唯	岩淵光則	仮家晋一郎	吉田憲恵

名称	株式会社 シー・エス・プランニング
所在地	〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1-229
電話番号	03-5371-0107
運営スタッフ	永田紀子

北海道ブロック事務局

名称	株式会社 森林環境リアライズ	
所在地	〒064-0821 北海道札幌市中央区北一条西21丁目3番35号	
電話番号	011-699-6830	
運営スタッフ	事務局長	池ノ谷重男
	スタッフ	朝野英昭 森 彩

東北ブロック事務局

名称	岩手県森林組合連合会	
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通り3丁目15-17	
電話番号	019-654-4411	
運営スタッフ	事務局長	藤澤実那
	スタッフ	木幡英雄 持丸宗貴

中部ブロック事務局

名称	株式会社 益建リバーズ	
所在地	〒509-2503 岐阜県下呂市萩原町西上田2641-1	
電話番号	0576-52-3280	
運営スタッフ	事務局長	大森政朗
	スタッフ	阪本敏男

近畿中国ブロック事務局

名称	新見市森林組合		
所在地	〒718-0002 岡山県新見市下熊谷407-2		
電話番号	0867-72-2179		
運営スタッフ	事務局長	小山正明	
	スタッフ	黒田里美	池田真理

四国ブロック事務局

名称	一般社団法人 高知県山林協会		
所在地	〒780-0046 高知県高知市伊勢崎町8-24		
電話番号	088-822-5331		
運営スタッフ	事務局長	長澤佳暁	
	スタッフ	大藪喜弘	北代大季

令和3年度技術力維持・向上対策研修運営委託事業
報告書

発行日：令和4年2月28日

発行：令和3年度技術力維持・向上対策研修運営委託事業統括事務局
一般社団法人 全国林業改良普及協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階

TEL 03-3584-6625